使用説明書

ご使用前に
必ずお読みください

お買い上げありがとうございます。

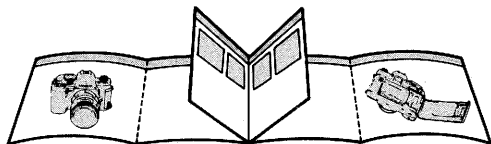
ミノルタα-9000は、ハイレベルフォトグラファーの撮影意図・創造意欲を充分に満し得る多彩な表現手段を備えた、マイクロコンピュータ制御オートフォーカス一眼レフです。

α-9000の主な特長

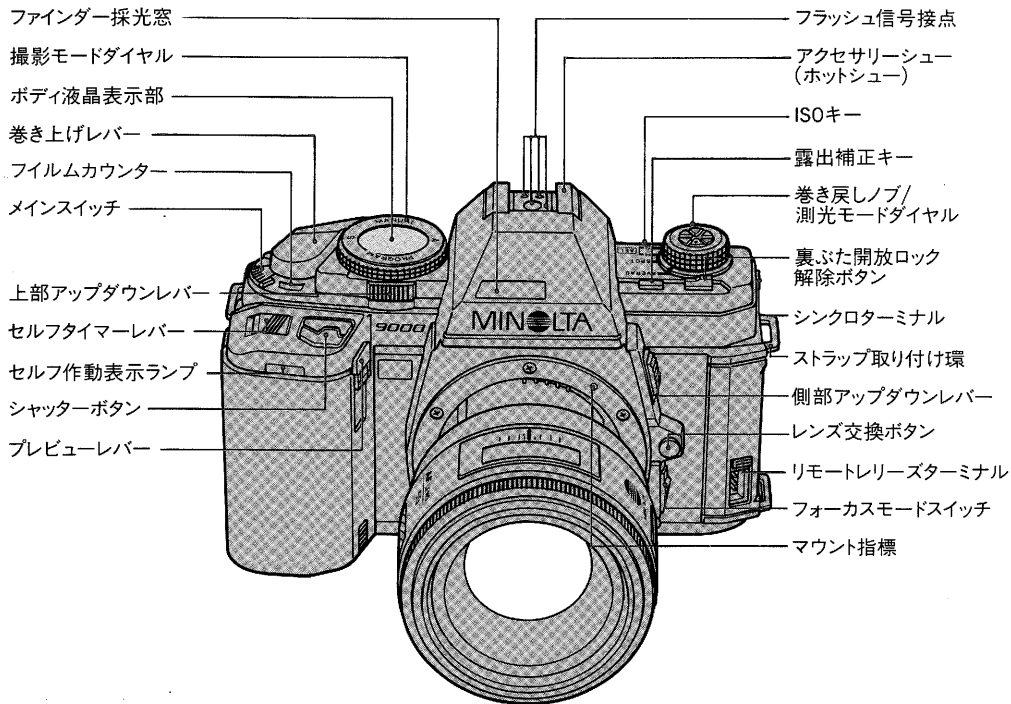
- ▶シャッターボタンに指を触れている間は常にピント合わせを行なうコンティニュアスAF
- ▶スポット測光とハイライト基準露光・シャドー基準露光が可能
- ▶1/4000秒(1/250秒フラッシュ同調)の高速シャッター
- ▶通常撮影・フラッシュ撮影とも、プログラムAE・絞り優先AE・シャッター速度優先AE・マニュアルが可能
- ▶液晶表示による撮影情報の完全表示
- ▶プレビュー・多重露光などの高機能をフル装備
- ▶最高5コマ/秒のモータードライブをはじめ、カメラと一体的なシステムアクセサリーの充実

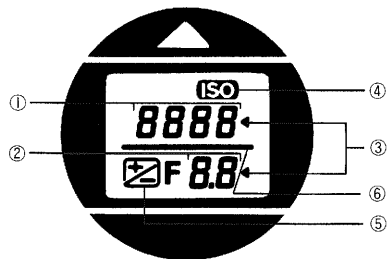
ご使用前に、この使用説明書を最後までお読みください。また本書とは別に「α-9000オートフォーカス撮影早わかり」も用意しておりますのであわせてご覧ください。

ミノルタα-9000の機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予測いたしかねます。

この使用説明書の説明は、AF50mmF1.7レンズ付きで行なっていますが、ほかのαレンズをお買い求めになっても使用方法は同じです。

この使用説明書は、各部の名称と照らし合わせてお読みいただけるようになっています。

各部の名称①

ファインダー採光窓
撮影モードダイヤル
ボディ液晶表示部
巻き上げレバー
フイルムカウンター
メインスイッチ
上部アップダウンレバー
セルフタイマーレバー
セルフ作動表示ランプ
シャッターボタン
プレビューレバー
フラッシュ信号接点
アクセサリーシュー
(ホットシュー)
ISOキー
露出補正キー
巻き戻しノブ/
測光モードダイヤル
裏ぶた開放ロック
解除ボタン
シンクロターミナル
ストラップ取り付け環
側部アップダウンレバー
レンズ交換ボタン
リモートレリーズターミナル
フォーカスモードスイッチ
マウント指標
MINOLTA
9000

表示部について

ボディ液晶表示部

①シャッター速度/フイルム感度/バルブ時タイムカウンター
②絞り値/露出補正値
③マニュアルセットマーク
④ISOマーク
⑤露出補正マーク
⑥スタンバイマーク

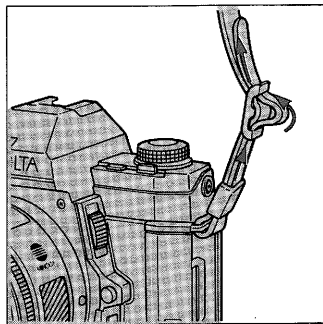
ファインダー内表示

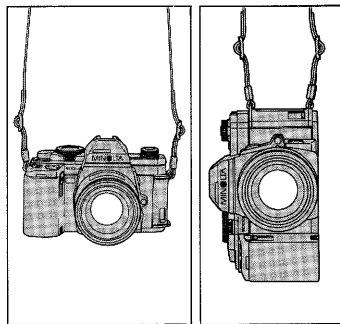
❶フォーカスフレーム
❷スポットサークル
❸フォーカス表示
❹フラッシュ充電完了・調光確認表示
❺シャッター速度/フイルム感度/バルブ時タイムカウンター
❻絞り値/露出補正値(設定中)
❼メータードマニュアル表示/露出補正値(設定後)
❽撮影モード表示
❾測光モード表示
●暗いときには❺〜❾の液晶表示部を自動的に照明します。

目 次

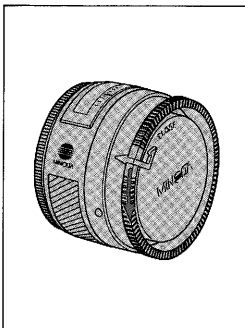
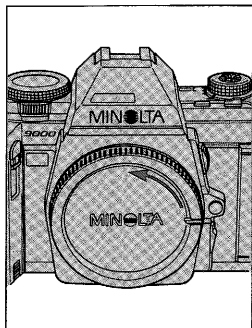
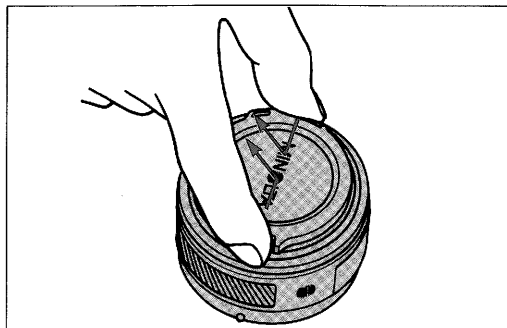
準備編

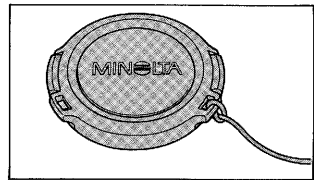
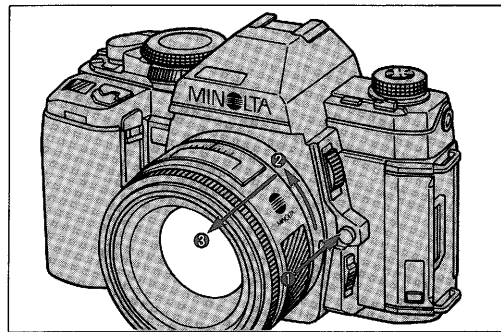
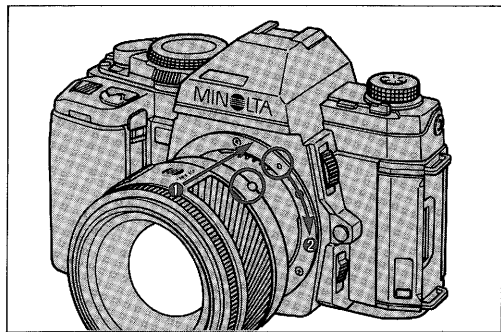
ストラップの取り付け

1 ストラップの両端をほどきます。

2 ストラップの両端をストラップ取り付け環に通して固定します。

● 肩から下げやすい長さに調節してください。

● お好みに応じて、2通りの取り付け方が選べます。

レンズの着脱

1.レンズの取り付け

1 ボディキャップとレンズ後キャップを外します。

2 レンズ前キャップを外します。

● 紐でストラップと結んでおけば、紛失を防ぐことができます。

3 レンズのマウント標点(赤点)をボディのマウント指標(赤点)に合わせてはめ込み❶、カチリとロックがかかるまで静かに回します❷。

2. レンズの取り外し

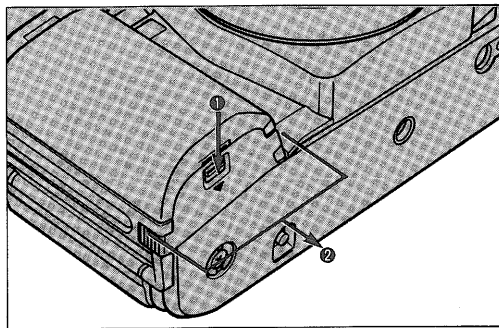
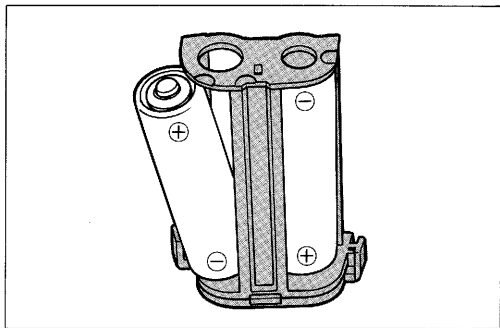
レンズ交換ボタンを押したまま❶、止まるまで回して❷、前方へ引き出します❸。

電池の入れ方とバッテリーチェック

1.電池の入れ方

次のいずれか同じ電池2本を使います。

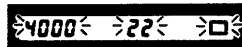
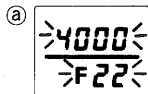
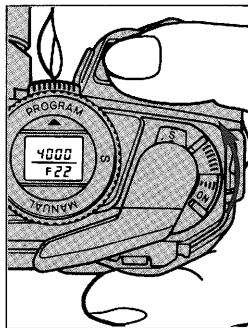
○ 単3形マンガン乾電池(SUM-3)
○ 単3形アルカリ乾電池(LR6)
○ 単3形ニッケルカドミウム蓄電池(Ni-Cd電池 KR-AA)

● Ni-Cd電池は指定の充電器で(ミノルタNi-Cd電池はミノルタNi-Cdチャージャー NC-2で)フル充電してからお使いください。
● P.64の「電池に関する注意」を併わせてお読みください。

1 バッテリーホルダーロック解除レバーを押し下げ❶、バッテリーホルダーを引き出します❷。

2 バッテリーホルダー内の極性表示⊕⊖にしたがって電池を入れます。

- 電池の接点でスプリングを押し下げながら入れてください。
- 電池を取り外すときは、バッテリーホルダー背面のすき間に指を入れ、⊖極側から押し出してください。

3 メインスイッチ(P.10参照)をOFFにして、バッテリーホルダーをロックがかかるまでグリップ内に押し込みます。

2.バッテリーチェック

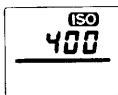
ⓐ
ⓑ

メインスイッチをONまたは•))) にして、シャッターボタンに指を触れるか軽く押し込んだとき、液晶表示部の表示が点灯すれば電池性能は十分です。

ⓐ表示が点滅すれば電池性能が低下しています。予備電池をご用意ください。

ⓑ表示が点灯しなければ、電池が完全に消耗しているか、電池の入れ方が間違っています。新品電池と交換(Ni-Cd電池ならフル充電)するか、入れ直してください。

- 新品電池が手元にない場合、フォーカスモードスイッチ(P.49参照)をMにすればマニュアルフォーカシングにて撮影を続けることができます(Ni-Cd電池使用時を除く)。

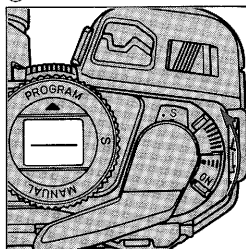
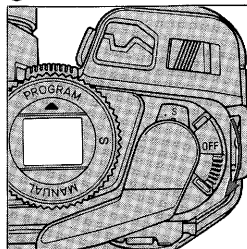
フイルム感度確認警告

ⓐ
ⓑ

フイルムカウンターが1以上のときに電池交換すると、メインスイッチの位置にかかわらず液晶表示部にフイルム感度が表示されて、フイルム感度を確認するよう警告します。

ⓐDXコード付きフイルム装塡時は自動的にフイルム感度が設定されていますので、メインスイッチを ON または ■))) にすれば、そのまま撮影できます。

ⓑDXコードのないフイルム装塡時（またはフイルム未装塡時）は ISO 100 が点滅し、シャッターがロックします。

● ISO100のフイルム装塡時（またはフイルム未装塡時）はメインスイッチを ON または ■))) にしてISOキーを一回押してください。

● ISO100以外のフイルム装塡時はメインスイッチを ON または ■))) にして、フイルム感度を設定し直してください（P.15参照）。

メインスイッチについて

ⓐ
ⓑ
メインスイッチは OFF・ON・■))) の3段階スライド式です。

ⓐカメラを使用するときは ON または ■))) にセットします。

ⓑカメラを使用しないときは OFF にセットします。

ONまたは ▪))) では…

①シャッターボタンに指を触れると、測距および測光が開始され、撮影に必要な情報がボディ液晶表示部とファインダー内に表示されます。シャッターボタンに指を触れている間は、測距および測光が継続され、ピントが合うとファインダー内に●マーク(緑LED)が点灯します。

● 測光はシャッターボタンから指を離しても10秒間継続します。
● 手袋など、指を覆うものをはめているときは、シャッターボタンを軽く押し込んでください。

②シャッターボタンを軽く押し込むと押し込んでいる間は、ファインダー内に●マーク(緑LED)が点灯したピント位置で、測距を停止します(フォーカスロック)。

③フイルムを巻き上げてシャッターボタンを完全に押し込むと、シャッターが切れます。

▪))) では…

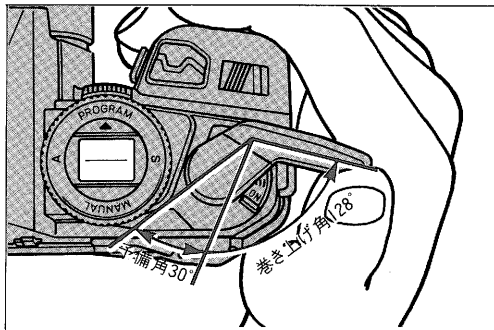
次の場合に電子ブザー音が鳴ってお知らせします。

①フォーカスロックしたとき

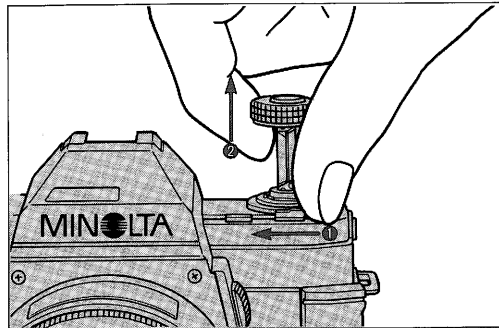
②セルフタイマー作動時

OFFでは…

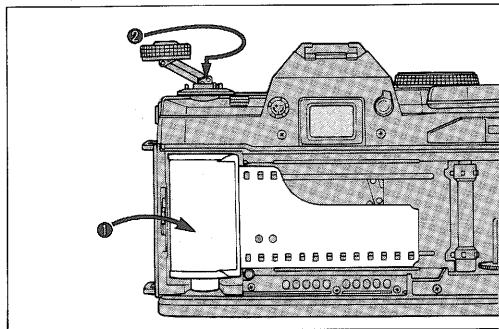
すべての作動が停止しシャッターがロックしますので、不用意にシャッターが切れることを防ぎます。また長秒時の露出を中断することもできます。

巻き上げレバーについて

シャッターを切るときは、巻き上げレバーを完全に止まるまで巻き上げてください。

● 巻き上げ角を分割する小刻み巻き上げも可能です。

フイルムの入れ方

1 メインスイッチを ON または ■))) にします。

2 裏ぶた開放ロック解除ボタンを押しながら❶、巻き戻しノブを引き上げて裏ぶたを開けます❷。

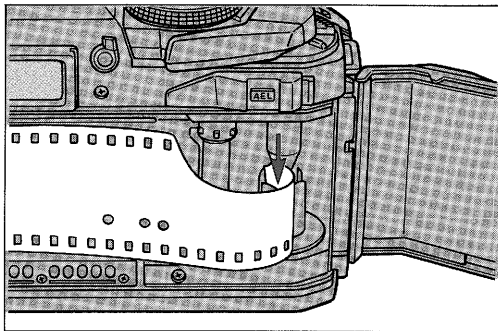
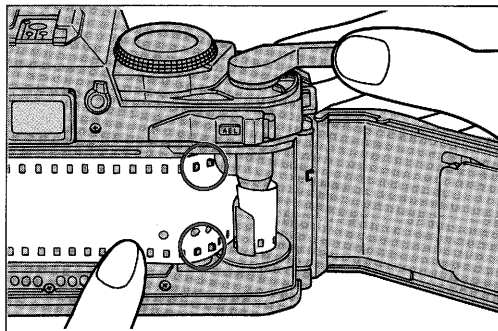
★フイルムの出し入れは直射日光を避けて行なってください。
★シャッター幕には手を触れないでください。

3 フイルム(パトローネ)をフイルム室に入れ❶、巻き戻しノブを倒して少し回しながら押し下げてもとに戻します❷。

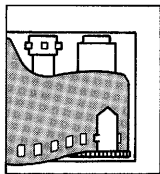
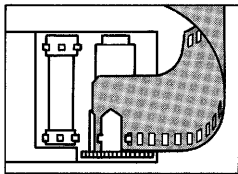
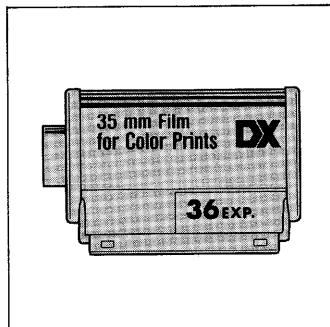
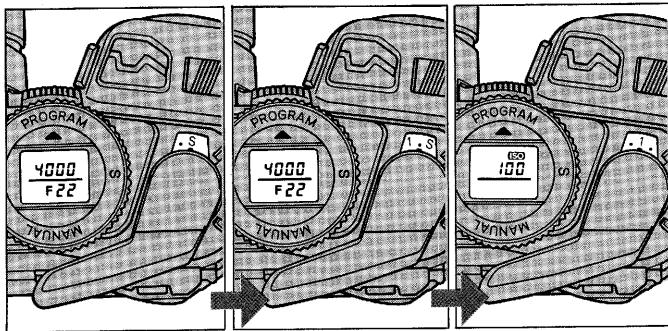
● パトローネ入り35mmフイルム(135型)を使用します。

4

フイルム先端をスプール爪に差し込みます。

フイルムの正しい差し込み方　悪い例

5

フイルムの上下の穴がスプロケットの歯にかみ合うよう、フイルムを押さえながら、巻き上げてシャッターを切ります。

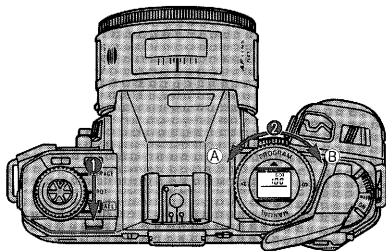
- 1/4000秒・使用レンズの最小絞り値でシャッターが切れます。

6 裏ぶたを閉じ、フイルムカウンターが1になるまで、巻き上げてシャッターを切る操作を繰り返します。

- 1/4000秒・使用レンズの最小絞り値でシャッターが切れます。フイルムカウンターが1になれば、フイルム感度（DXコード付きフイルムは自動設定）が液晶表示部に点灯します。
- 巻き上げ時に巻き戻しノブ上面の白点が回転していれば、フイルムが正しく送られています。
- フイルムカウンターが1になるまでは、オートフォーカスは作動しません。

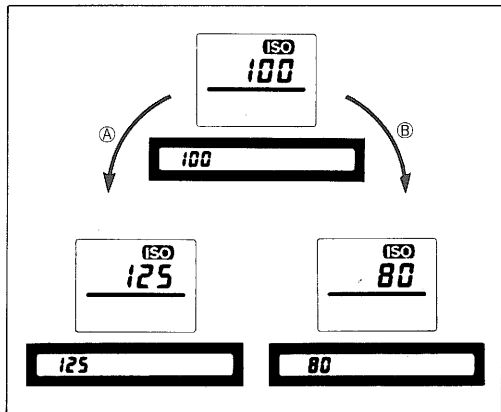
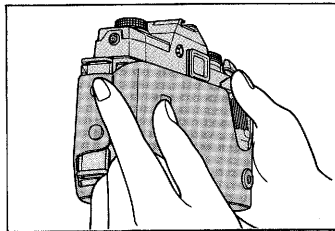
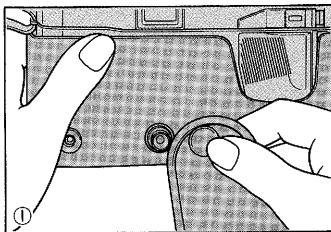
DXコード付フイルムの場合

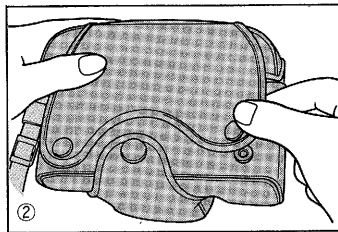
フイルム感度（ISO）は自動的に設定されます。

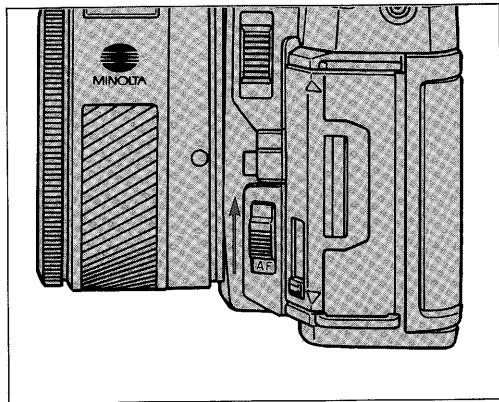
- 設定されたフイルム感度と異なる値に設定したいときは、フイルムを入れフイルムカウンターが1になるまで巻き上げた後、希望の値をDXコードのないフイルムと同様の手順で設定してください。

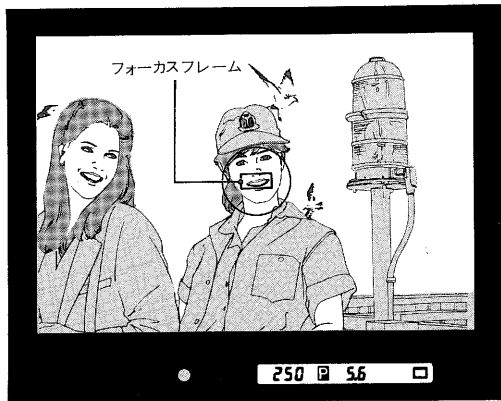
DXコードのないフイルムの場合

ISO100(電池交換後)または前回設定した値が設定されます。設定された値と異なるフイルムを使用するときは、フイルムを入れフイルムカウンターが1になるまで巻き上げた後、ISOキーを押しながら❶、上部アップダウンレバーを操作して❷、感度を設定してください。

レバーを一回左へ押せば1/3段高感度にⒶ、一回右へ押せば1/3段低感度にⒷなります。押し続ければ連続して切り替わります。

- ISO6〜6400の設定が可能です。
- ISOキーを押せば、設定されているフイルム感度をいつでも確認できます。
- ほとんどのフイルムではフイルム確認窓から感度・枚数・種類を読み取ることができます。

ケースの取り付け

1 カメラをケースにきっちりと入れ、ケース左側のスナップを止めます。

2 前カバーのスナップを①・②の順に止めます。

- ズームレンズはレンズが最も短くなるようにします。
- メインスイッチはOFFにしてください。

撮影編

オートフォーカスによるピント合わせと撮影

1 フォーカスモードスイッチをAFにします。

●あらかじめ撮影モード(P.22参照)を設定しフイルムを巻き上げてください。

2 シャッターボタンに指を触れ、ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを重ねます。ピントが合うと●マーク(緑LED)が点灯します。

● シャッターボタンに指を触れている間は、オートフォーカスによるピント合わせが常に行なわれています。
● シャッターボタンを軽く押し込むと、被写体にピントが合ってからピント位置が固定されます(フォーカスロック)。メインスイッチが ●))) の場合はピントが合ったときに電子ブザー音が鳴ります。

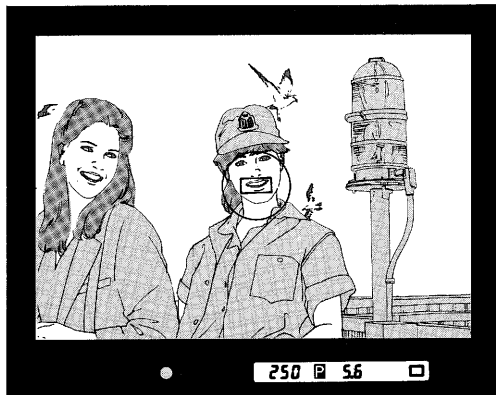
フォーカス表示▶●◀の内容

●マーク(緑LED) 点灯	合焦表示(被写体にピントが合っています)
▶マーク(赤LED) 点灯	近距離警告(被写体が近すぎます)
▶◀マーク(赤LED) 点滅	検出不能警告(P.20参照)

3 ●マークの点灯を確認し、シャッターボタンを完全に押し込んでシャッターを切ります。

★撮影されたプリント用フイルムからサービスサイズにプリントしたり、スライド用フイルムをマウントすると、実際に撮影した画面よりやや狭くなります。撮影の際に画面の周辺部に少し余裕をとることをおすすめします。
★オートフォーカス作動中はレンズの距離リングに触れないでください。
★シャッターボタンをぬらさないでください。水滴などがつくと、オートフォーカスが作動してしまうことがあります。

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームから外れる構図のときは、フォーカスロックを利用します。

1 シャッターボタンに指を触れ、ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを重ねてシャッターボタンを軽く押し込みます。

● シャッターボタンに指を触れた状態に戻せばフォーカスロックは解除され、何回でも繰り返すことができます。

2 ●マークが点灯すれば、シャッターボタンを軽く押し込んだまま構図を決め、シャッターボタンを完全に押し込んでシャッターを切ります。

オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体はオートフォーカスによりピントを合わせることができます。ただし、次の特殊な被写体はピントを合わせることができない場合があります。

被　写　体	フォーカス表示
●コントラスト(明暗差)の極度に低い被写体…Ⓐ ●非常に暗い被写体……………………………Ⓑ ●明るすぎる被写体 ●横方向にコントラストのない被写体 ●強い逆光状態にある被写体…………………Ⓒ	▶ ◀マーク(赤LED)点滅 (検出不能警告)
●遠くと近くに共存する被写体…………………Ⓓ ●繰り返しパターンの連続する被写体………Ⓔ (一定間隔の縦縞模様など)	●マーク(緑LED)点灯 (ピントが合っていないのに合焦表示となる)
●高速で移動する被写体……………………………Ⓕ	表示が出ない

●上記の場合は、苦手な被写体と等距離にある別の被写体にフォーカスロックするか、手動によるピントあわせ(P.49参照)を行なってください。

Ⓐ

250 P 5.6

Ⓑ

30" A 1.4

Ⓒ

4000 A22

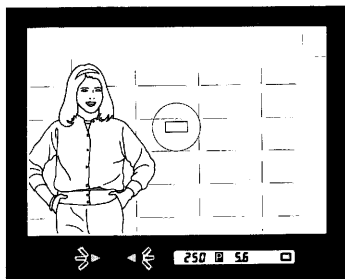
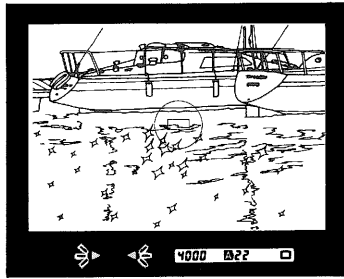
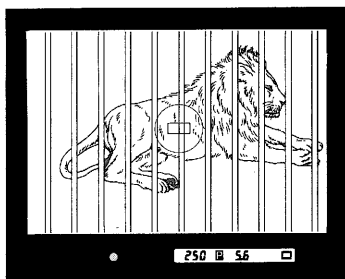
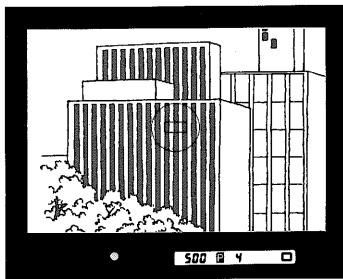
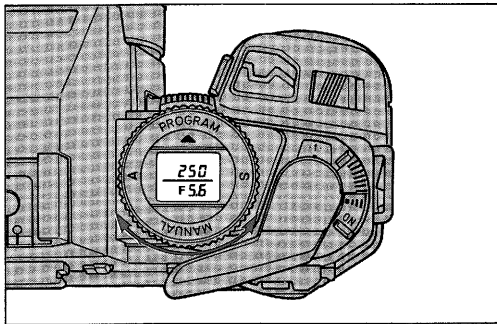
Ⓓ

250 P 5.6

Ⓔ

500 P 4

Ⓕ

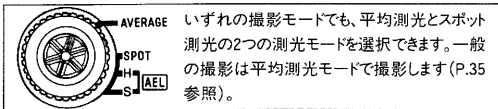
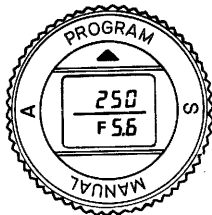
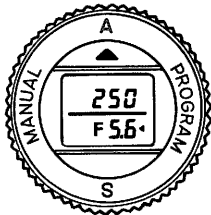
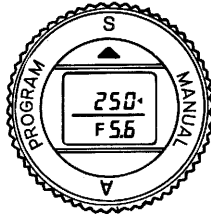
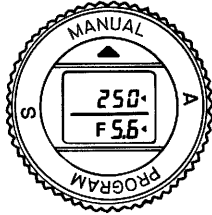
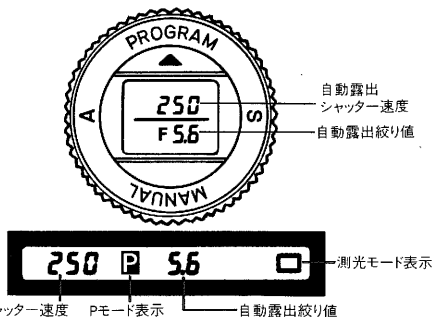
4000S 5.6

撮影モードの設定

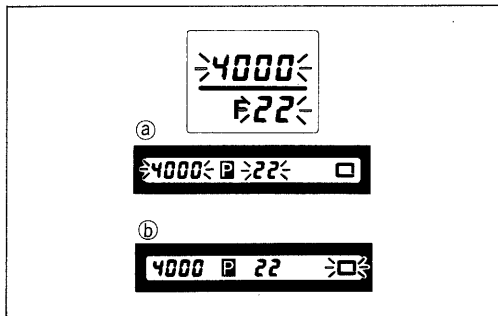
本機は、撮影目的に応じて次の4つの撮影モードを選択できます。

○Pモード(プログラムAE)
○Aモード(絞り優先AE)
○Sモード(シャッター速度優先AE)
○Mモード(マニュアル)

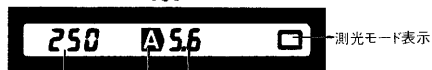
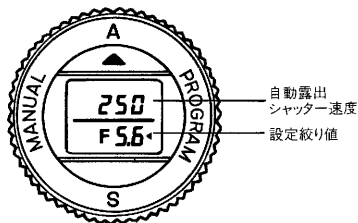
設定は撮影モードダイヤルを回転させて▲の位置に合わせます。

●クリックのある位置にセットしてください。

いずれの撮影モードでも、平均測光とスポット測光の2つの測光モードを選択できます。一般の撮影は平均測光モードで撮影します(P.35参照)。

Pモード(プログラムAE)

Pモードでは、絞り値もシャッター速度も被写体の明るさに応じてカメラが自動的に決定しますので、4つの撮影モードのうち最も操作が簡単です。スナップ・風景撮影など、ほとんどの場合、Pモードで撮影できます。

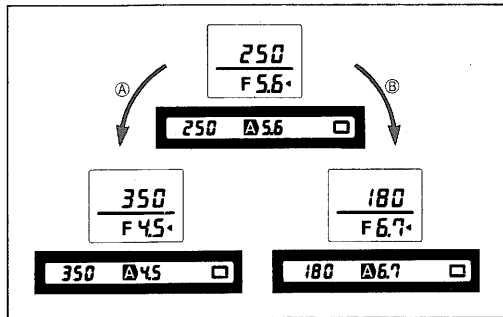
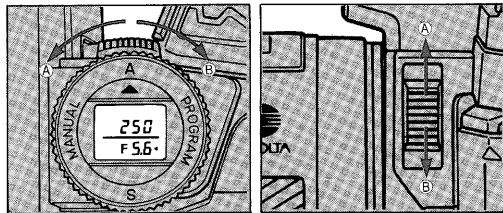
- レンズの焦点距離に応じて3つのプログラムが自動的に切り替わります(P.44参照)。
- 露出値は一定のまま、希望する絞り値とシャッター速度の組み合わせに変更することができます(プログラムシフト　P.45参照)。

ⓐ絞り値・シャッター速度が点滅すれば制御連動外です。
ⓑ測光モード表示が点滅すれば測光連動外です。
いずれもそのまま撮影すると正しい露出が得られませんので、次の方法で点灯させます。

- 被写体が明るすぎるとき…NDフィルターを使用するか、被写体の明るさを減らします。
- 被写体が暗すぎるとき…フラッシュ撮影を行なうか、被写体の明るさを増します。

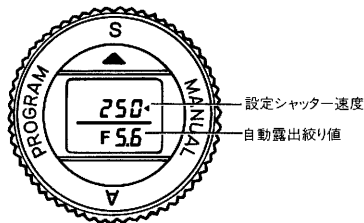
Aモード(絞り優先AE)

Aモードでは、設定した絞り値と被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度を決定します。あらかじめ希望の絞り値を設定しておけば、被写界深度(P.53参照)を活かしてポートレート撮影やクローズアップ撮影などを効果的に行なうことができます。

●使用レンズの開放絞り値から最小絞り値まで1/2段ごとに設定できます。

液晶表示部の表示を点灯させた上、上部または側部アップダウンレバーを操作して、希望の絞り値を設定します。

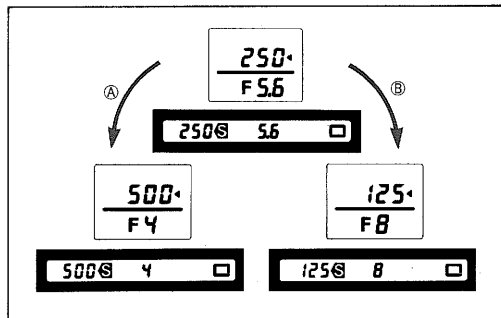
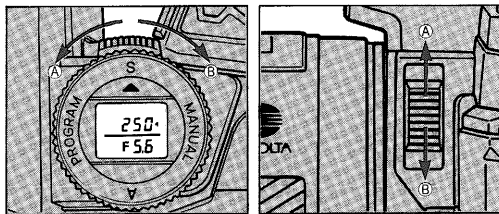
- 上部レバーを一回左へ押すか、側部レバーを一回上へ押せば、1/2段絞りが開きますⒶ。
- 上部レバーを一回右へ押すか、側部レバーを一回下へ押せば、1/2段絞りが閉じますⒷ。

●押し続ければ連続して切り替わります。絞りを開けるほどシャッター速度は高速に、閉じるほど低速になります。

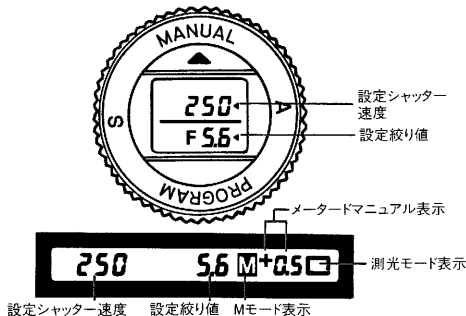
●シャッター速度が点滅すればシャッター速度連動外です。絞り値を変更するかPモードの場合と同じ方法で点灯させてください。測光モード表示が点滅すれば測光連動外です。Pモードの場合と同じ方法で点灯させてください。

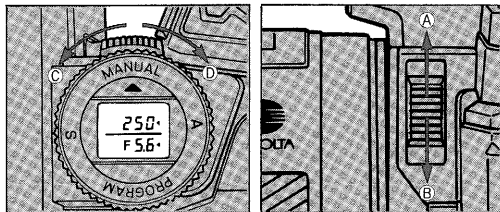
Sモード(シャッター速度優先AE)

Sモードでは、設定したシャッター速度と被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞り値を決定します。あらかじめ希望のシャッター速度を設定しておけば、動きのあるスポーツ写真などの撮影を効果的に行なうことができます。

- 1/4000秒〜30秒のシャッター速度を1段ごとに設定できます。
- 長時間露出(バルブ)撮影を行なうときは、SモードではなくMモードの **bulb** にセットしてください。

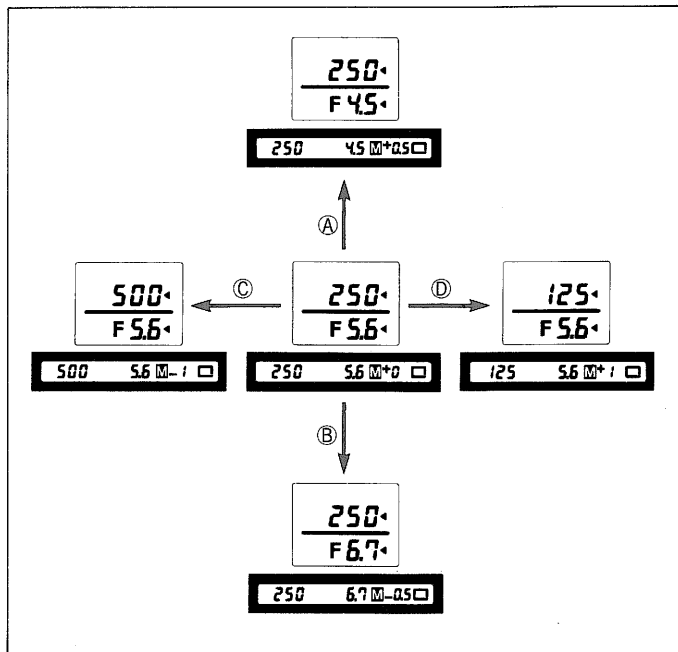
液晶表示部の表示を点灯させた上、上部または側部アップダウンレバーを操作して、希望のシャッター速度を設定します。

- 上部レバーを一回左へ押すか、側部レバーを一回上へ押せば、1段高速になりますⒶ。
- 上部レバーを一回右へ押すか、側部レバーを一回下へ押せば、1段低速になりますⒷ。

- 押し続ければ連続して切り替わります。高速になるほど絞りは開き、低速になるほど絞りは閉じます。
- 絞り値が点滅すれば絞り連動外です。シャッター速度を変更するかPモードの場合と同じ方法で点灯させてください。測光モード表示が点滅すれば測光連動外です。Pモードの場合と同じ方法で点灯させてください。

Mモード(マニュアル)

Mモードでは、絞り値もシャッター速度も撮影者自身が設定します。ファインダー内液晶表示部のメータードマニュアル表示や単独露出計の露出決定に基づいて撮影するときや、大型ストロボ・フラッシュバルブを用いて撮影するときにマニュアル撮影します。

- 使用レンズの開放絞り値から最小絞り値まで1/2段ごとに設定できます。
- 1/4000秒〜30秒のシャッター速度を1段ごとに設定できます。

液晶表示部の表示を点灯させた上、側部アップダウンレバーを操作して絞り値を、上部アップダウンレバーを操作してシャッター速度を設定します。

- 側部レバーを一回上へ押せば1/2段絞りが開きⒶ、一回下へ押せば1/2段絞りが閉じますⒷ。
- 上部レバーを一回左へ押せば1段高速にⒸ、一回右へ押せば1段低速になりますⒹ。

- 押し続ければ連続して切り替わります。
- 任意の露光時間で長時間露出撮影を行なうときは **bulb** にセットしてください(P.48参照)。

メータードマニュアル表示は、設定絞り値・シャッター速度による露光量と、カメラが測光した測光値との差を0.5EV単位で表示したものです。

- +0.5の場合は0.5EV露出オーバーです。
  −0.5の場合は0.5EV露出アンダーです。
- ±6.5EVを超えるときは、+6.5または−6.5が点滅します。
- 測光モード表示が点滅すれば測光連動外です。

絞り値・シャッター速度・メータードマニュアル表示

絞り値	シャッター速度		メータードマニュアル表示
P・A・S・Mモード	P・A・S・Mモード	P・Aモード	Mモード
64（F No.）	4000	3000（分の1秒）	+6.5（EV）
54	2000	1500	+6
45	1000	750	+5.5
38	500	350	+5
32	250	180	+4.5
27	125	90	+4
22	60	45	+3.5
19	30	20	+3
16	15	10	+2.5
13	8	6	+2
11	4	3	+1.5
9.5	2	0"7（秒）	+1
8	1"	1"5	+0.5
6.7	2"	3"	0
5.6	4"	6"	−0.5
4.5	8"	10"	−1
4	15"	20"	−1.5
3.5	30"		−2
2.8	Mモード		−2.5
2.4	bulb（露光時間をカウント）		−3
2			−3.5
1.7			−4
1.4			−4.5
1.2			−5
			−5.5
			−6
			−6.5

フラッシュ撮影

本機とプログラムフラッシュを組み合わせると、撮影目的に応じて次の4つの撮影モードを選択できます。

撮影モード／操作項目	Pモード フラッシュ撮影	Aモード フラッシュ撮影	Sモード フラッシュ撮影	Mモード フラッシュ撮影
本機の撮影モード設定	Pモード（プログラムAE）	Aモード（絞り優先AE）	Sモード（シャッター速度優先AE）	Mモード（マニュアル）
絞り値の設定	被写体の明るさに最適な絞り値（F2.8～8）とシャッター速度（1/60秒・1/125秒・1/250秒のいずれか）に自動設定	希望の絞り値に設定可能	F5.6に自動設定（AEロックにより設定シャッター速度に応じた自動露出絞り値に設定可能）	希望の絞り値に設定可能
シャッター速度の設定		1/250秒に自動設定（AEロックにより設定絞り値に応じた自動露出シャッター速度に設定可能）	1/250秒～30秒に設定可能	
フラッシュ光の調光	ダイレクト測光による自動調光			ダイレクト測光による自動調光（4000AF使用時はフル発光も可能）

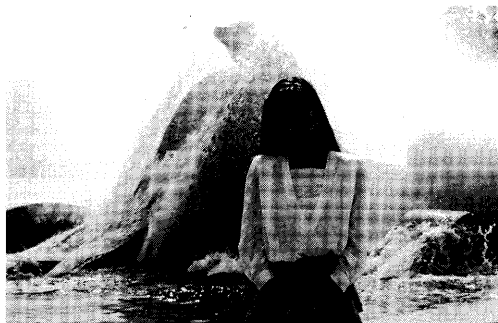
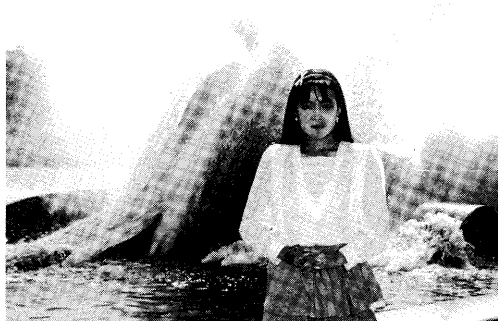
Pモードフラッシュ撮影は、3つの撮影モードのうち最も操作が簡単です。日中シンクロ撮影（自然光下でのフラッシュ撮影）に対応したプログラムですから、逆光時の人物撮影でも、人物・背景の両方が美しく描写されます（オートフィルインフラッシュ）。

Aモードフラッシュ撮影は、自由に絞りが選べますので、①被写界深度（P.53参照）②調光距離（絞りを開けるほど長い）③発光間隔（絞りを開けるほど短い）を考慮した撮影ができます。AEロックを使った④日中シンクロ撮影⑤スローシンクロ撮影では、主要被写体・背景の両方が美しく描写されます（オートフィルインフラッシュ）。

Sモードフラッシュ撮影は、シャッター速度（1/250秒～30秒）が自由に選べますので、主要被写体または背景に対するシャッター速度効果を考慮した撮影ができます。AEロックを使えば上記④・⑤の撮影ができます（オートフィルインフラッシュ）。

Mモードフラッシュ撮影は、自由に絞りとシャッター速度（1/250秒～30秒）を組み合わせることができます。フラッシュ光はダイレクト測光により自動調光されます（4000AFではフラッシュ光のフル発光も可能です）。

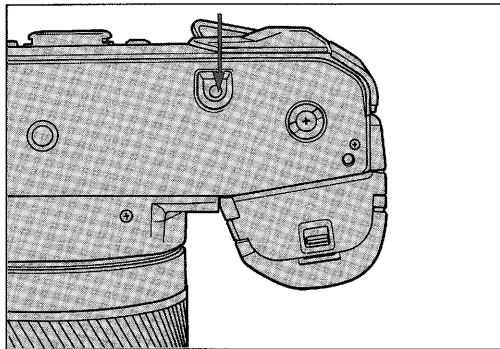
●ISO12～1000のフイルムをお使いください。
●S・MモードおよびAEロックを使ったAモードによる日中シンクロ・スローシンクロ撮影では、1/250秒以下（1/250秒～30秒）のシャッター速度をセットしてください。1/500秒以上にセットした場合は充電完了後、1/250秒に自動設定されます。
●コントロールグリップCG-1000セットによる光量比制御撮影（ツインライトコントロール）の場合、P・Aモードの同調シャッター速度は1/60秒に自動設定されます。S・Mモードでは1/4000秒～1/125秒にセットしたときのみ1/60秒に自動設定されます。
●撮影距離が調光距離範囲外のときは適正な露出が得られませんので、撮影距離または設定絞り値（P・Sモードの場合を除く）を変更してください。
●フラッシュの充電が完了すれば、シャッターボタンに指を触れるとファインダー内ϟマークが点滅します。シャッターを切って適正露出が得られた場合は、ϟマークの点滅が速くなります（1秒間）。
●コード式フラッシュを使用するときは、シンクロコードのプラグをシンクロターミナルに差し込みます。ただしコントロールグリップCG-1000セットによる光量比制御撮影（ツインライトコントロール）を行なう場合は、カメラのシンクロターミナルを使用しないでください。
●閃光時間の長い一部のエレクトロフラッシュを使用する場合は、1/125秒以下（1/125秒～30秒）のシャッター速度にセットしてください。

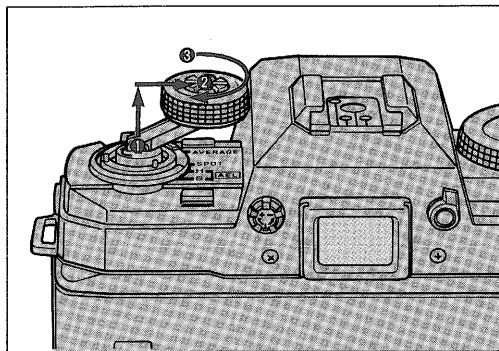
自然光による撮影

日中シンクロ撮影

通常のオートフラッシュ撮影

スローシンクロ撮影

AF用補助光機能

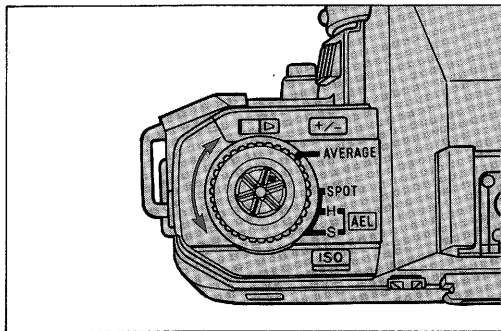
オートフォーカス撮影の場合、被写体が暗く、しかも低コントラストのときは、本機のシャッターボタンを軽く押し込むと、自動的にフラッシュのAF用補助光発光部から赤色光が被写体に照射され、この光による測距・ピント合わせが行なわれます。

フイルムの巻き戻し

1 巻き戻しボタンを止まるまで押し込みます。

★フイルムの出し入れは直射日光を避けて行なってください。
★巻き戻しが終わるまでは、絶対に裏ぶたを開けないでください。

2 巻き戻しノブを引き上げ ❶、横に倒し ❷、矢印方向に回転させて❸、フイルムを巻き戻します。

3 裏ぶたを開け(P.12参照)、フイルムを取り出します。

応用編

測光モードの設定

本機は、撮影目的に応じて次の2つの測光モードを選択できます。

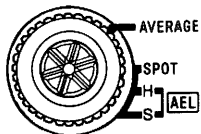
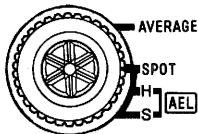
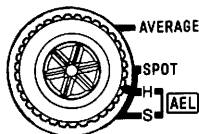
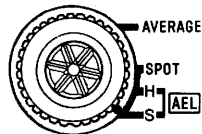
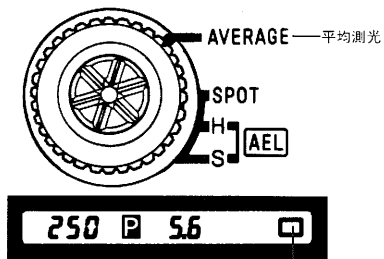
○平均測光モード(中央重点的平均測光)
○スポット測光モード

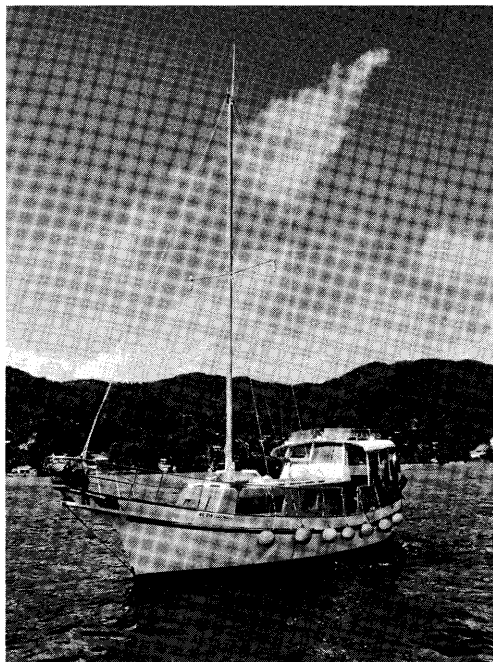
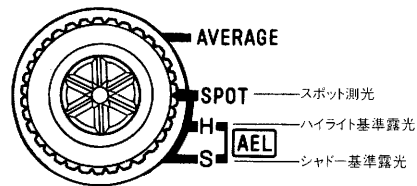
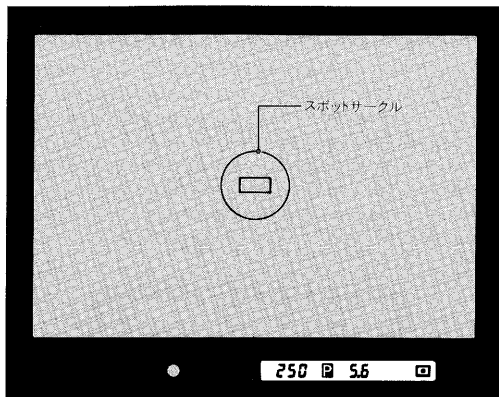
さらに、スポット測光モードでは、通常のスポット測光(SPOT)に加え、次の2つの基準露光を選択できます。

○ハイライト基準露光(H)
○シャドー基準露光(S)

設定は測光モードダイヤルを回転させて白い指標を合致させます。

●クリックのある位置にセットしてください。

平均測光

スポット測光

ハイライト基準露光

シャドー基準露光

平均測光モード

平均測光モードでは、撮影する画面全体の明るさを中央部に近いものほど重点をおきながら測光し、平均化しますので、周辺と極端な明暗差がない主要被写体なら、適正露出で適切な濃度に再現されます。一般の撮影は平均測光モードで撮影できます。

スポット測光モード

スポット測光モードでは、撮影する画面内にある特定部分の明るさだけを測光できますので、主要被写体の適正露出を正確に得られるばかりか、ハイライト・シャドー基準露光を活用すれば被写体のハイライト部・シャドー部を最適に再現するための露出制御が可能です。

- ファインダー中央の円(スポットサークル)内が測光されます。
- Mモードでもスポット測光ができます。この場合は測光値に基づくメータードマニュアル表示となります。

スポット測光(SPOT)では、測光した被写体をフイルム上で中間濃度に再現します。平均測光モードなら適正露出が得られない、逆光時の人物など、周辺と極端な明暗差がある主要被写体を正確に、しかも簡単に測光できます。

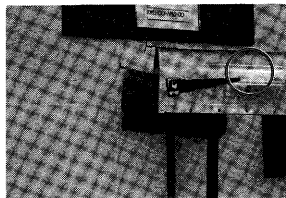
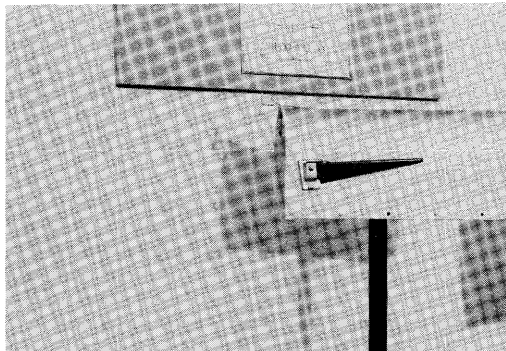
ハイライト基準露光(H)では、①画面全体が白っぽいために平均測光モードだとグレイに再現されてしまう白い被写体、②スポット測光(SPOT)だとグレイに再現されてしまう白い被写体を測光すれば、ハイライトとして白く、しかもコントラストを残して再現するように露出制御されます。

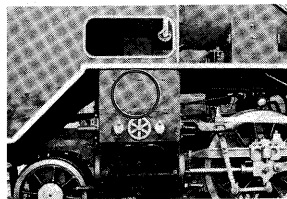
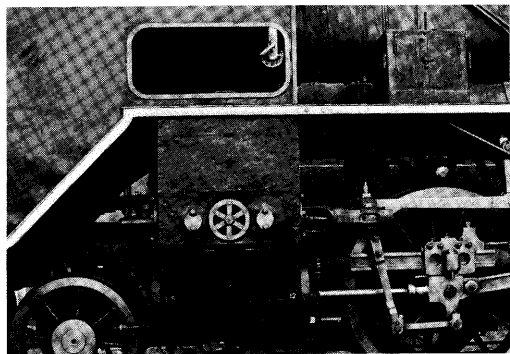
シャドー基準露光(S)では、①画面全体が黒っぽいために平均測光モードだとグレイに再現されてしまう黒い被写体、②スポット測光(SPOT)だとグレイに再現されてしまう黒い被写体を測光すれば、シャドーとして黒く、しかもコントラストを残して再現するように露出制御されます。

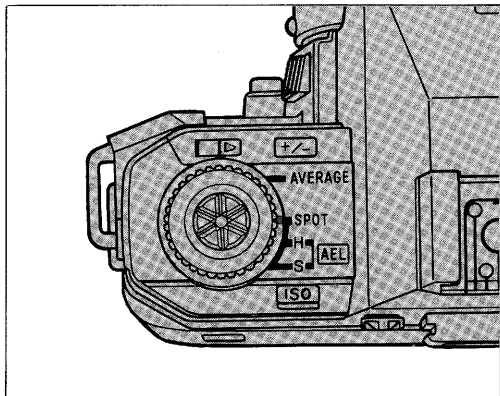
★P・A・Sモードフラッシュ撮影による日中シンクロ・スローシンクロ撮影(オートフィルインフラッシュ)は、平均測光モードで行なってください。

スポット測光(SPOT)

測光したポイント

ハイライト基準露光(H)

測光したポイント

シャドー基準露光(S)

測光したポイント

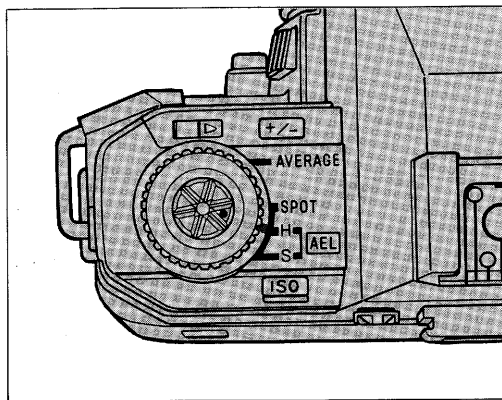
スポット測光(SPOT)

1 測光モードダイヤルをSPOTにセットします。

2 測光したい被写体にピントを合わせ、スポットサークル内に収めます。

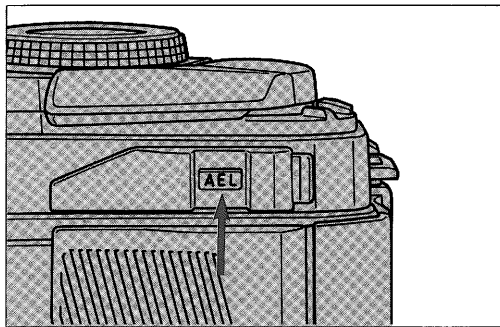
● 構図を変えたいときはAEロックボタンを押し込みます。AEロックボタンを押し込んでいる間は測光値が固定されます。

3 シャッターを切って撮影します。

● 測光した被写体は中間濃度でフイルム上に再現されます。

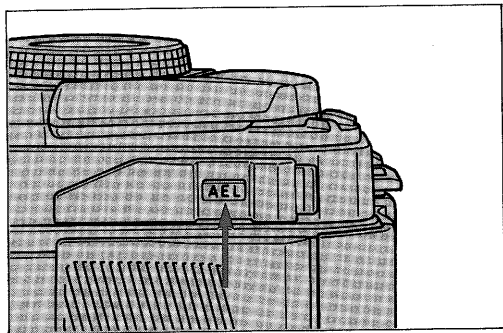
ハイライト基準露光(H)・シャドー基準露光(S)

1 測光モードダイヤルをH(ハイライト基準露光)またはS(シャドー基準露光)にセットします。

- 白い被写体をハイライトとして再現したい場合はHに、黒い被写体をシャドーとして再現したい場合はSにセットします。

2 測光したい被写体にピントを合わせ、スポットサークル内に収めます。

3 AEロックボタンを押し込みます。

● AEロックボタンを押し込んでいる間はハイライト・シャドー基準露光それぞれの露出制御が行なわれた上、測光値が固定されます。

4 シャッターを切って撮影します。

● 測光した被写体はハイライトとして、またはシャドーとしてフイルム上に再現されます。

AEロック

AEロックは、P・A・Sモードの測光値を撮影前に記憶させるためのもので、AEロックボタンを押し込んでいる間は測光値を固定することができます。次の場合に使用します。

- AEロックしている間も、露出値は一定のまま、絞り値・シャッター速度の変更およびプログラムシフト(P.45参照)が可能です。
- 焦点距離によって絞り値の変化するズームレンズは変化量が自動補正されますので、AEロックしている間も、露出値は一定のままズーミングできます。

①平均測光モードでの使用(露出補正)

通常の平均測光モードでは、主要被写体とその周辺に極端な明暗差があると、明暗差が大きいほど主要被写体の適正露出が得られません(人物の背景が極端に明るいと人物が暗く写る、など)ので、主要被写体だけの測光値をAEロックして撮影します。

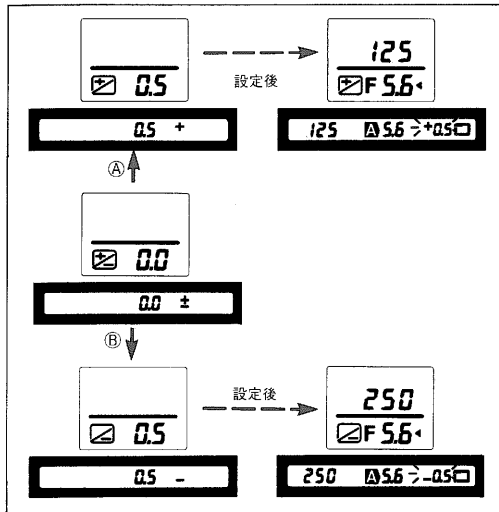
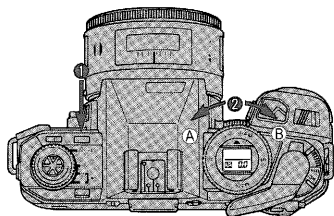
- 主要被写体をファインダー内一杯に収めてからAEロックし、構図を決めて撮影します。

②スポット測光モードでの使用

- スポット測光(SPOT)では、AEロックすれば測光値が固定されますので、自由な構図で撮影できます。
- ハイライト基準露光(H)・シャドー基準露光(S)では、それぞれの露出制御が行なわれた上、測光値が固定されます。

③A・Sモードによる日中シンクロ・スローシンクロ撮影

主要被写体・背景の両方を美しく描写する露出制御が行なわれます。

露出補正機構

露出補正機構は、P・A・Sモードの露出値を意図的に露出オーバーまたは露出アンダーに補正することができます。露出補正キーを押しながら❶、上部アップダウンレバーを操作して❷、補正値を設定してください。

レバーを一回左へ押せば1/2段露出オーバーにⒶ、一回右へ押せば1/2段露出アンダーにⒷ、補正されます。押し続ければ連続して切り替わります。

- +4.0〜−4.0段の補正値を設定できます。
- 補正値設定後はファインダー内に補正値が点滅します。
- Pモードでは絞り値・シャッター速度の両方が、Aモードではシャッター速度が、Sモードでは絞り値が補正されます。
- フイルム感度がISO 6および6400のときも補正が可能です。

★R60フィルター使用時は+1.0にセットしてください。

平均測光モードでの露出補正の例

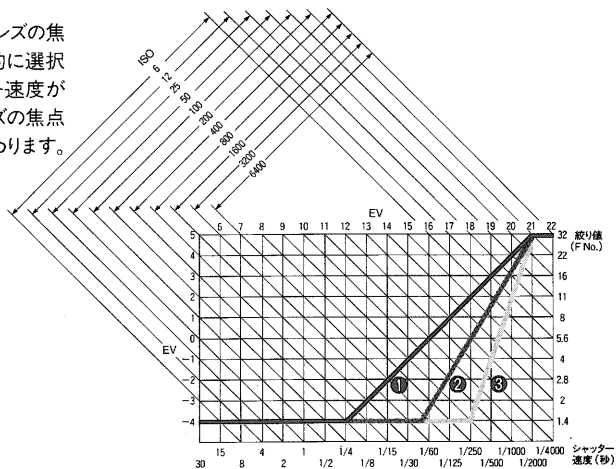
被　写　体	露出補正値
●逆光の人物 ●空のたくさん入った風景	+1〜+2
●雪上の人物 ●空を背景に入れた人物	+1※
●背景が暗いとき ●スポットライトを浴びた人物	−1〜−2

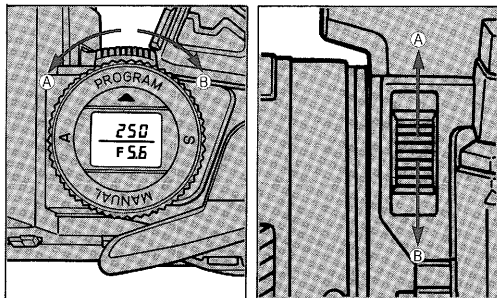
※画面の中の雪や空の部分が少ない場合、補正は不要です。

- 露出の補正をして撮影した後は、露出補正値を0に戻してください。
- フラッシュ撮影時も露出補正が可能です。

3つのプログラムとプログラムシフト

3つのプログラム

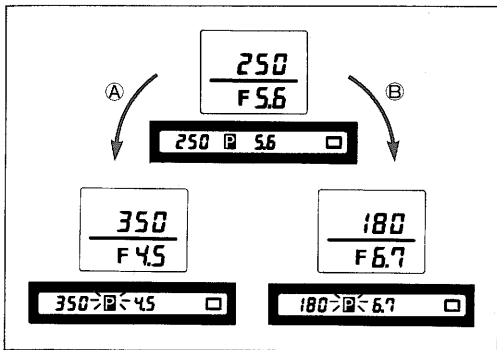
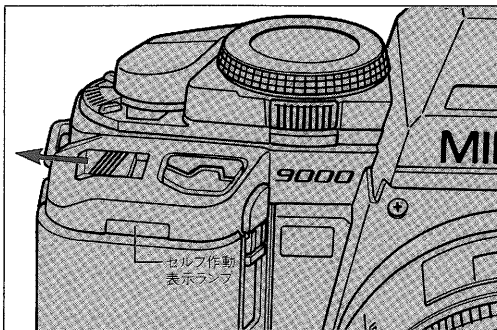
Pモードで通常の定常光撮影を行なう場合、使用レンズの焦点距離により、3つのプログラムのいずれかが自動的に選択され、各焦点距離において最適な絞り値・シャッター速度が設定されます(オートマルチプログラム)。ズームレンズの焦点距離を変えたときも、自動的にプログラムが切り替わります。

プログラムの種類	焦点距離	特　　長
❶ ワイド プログラム	34mm以下	より深い被写界深度が得られるよう、絞りは絞り気味に。
❷ スタンダード プログラム	35〜105mm	標準的なプログラムライン。
❸ テレ プログラム	106mm以上	ブレを防ぐよう、シャッター速度は高速気味に。絞りは開放気味に。

プログラムシフト

プログラムにしたがって設定された絞り値・シャッター速度は、露出値を一定のまま、希望の組み合わせに変えることができます(プログラムシフト)。ある特定のシーンだけ希望の絞り値やシャッター速度に変えて撮影するときに便利です。

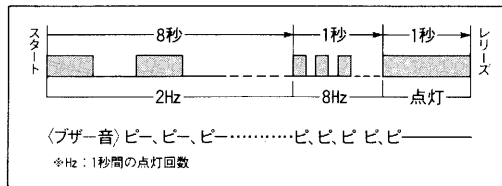
- 絞り値・シャッター速度とも1/2段ごとに設定できます。
- フラッシュ撮影ではプログラムシフトはできません。

液晶表示部の表示を点灯させた上、上部または側部アップダウンレバーを操作して、希望の絞り値・シャッター速度を設定します。

- 上部レバーを一回左へ押すか、側部レバーを一回上へ押せば、1/2段絞りが開き、1/2段シャッター速度が高速になりますⒶ。
- 上部レバーを一回右へ押すか、側部レバーを一回下へ押せば、1/2段絞りが閉じ、1/2段シャッター速度が低速になりますⒷ。

- 押し続ければ連続して切り替わります。
- プログラムシフト中はファインダー内のPモード表示が点滅します。シャッターを切らずにシャッターボタンから指を離すと10秒後に、またはシャッターを切って指を離すと、表示が消え、もとのプログラムに戻ります。

セルフタイマー撮影

1 セルフタイマーレバーをスライドさせます。

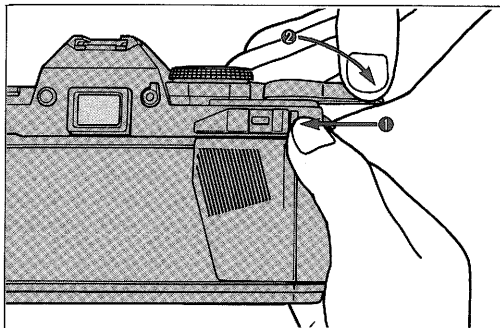
2 フイルムを巻き上げ、被写体にピントを合わせてからシャッターを切ります。

● アイピースからの逆入光を防止するため、アイピースシャッター(P.52参照)を閉じてからシャッターを切ってください。

セルフタイマーの作動時間は10秒です。作動中はセルフ作動表示ランプが点滅し、メインスイッチが ■))) のときは電子ブザー音が継続的に鳴ります。

● 作動を途中で解除するときは、セルフタイマーレバーをもとに戻すかメインスイッチを OFF にします。

● セルフタイマー撮影が終われば、セルフタイマーレバーをもとに戻します。

★セルフタイマーは、シャッター速度が **bulb** にセットされていると作動しません。

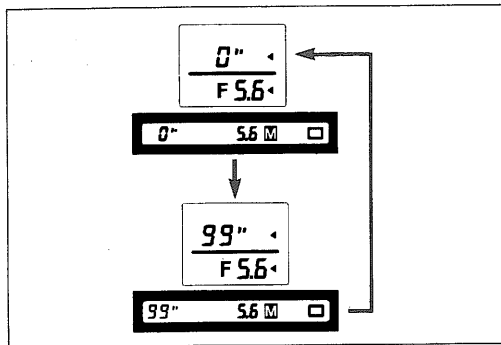
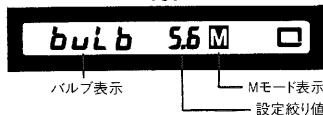
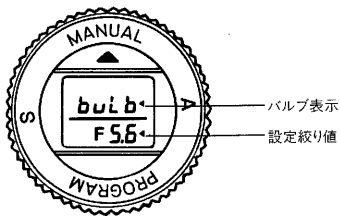
多重露光撮影

1 シャッターを切って1回目の露光を行ないます。

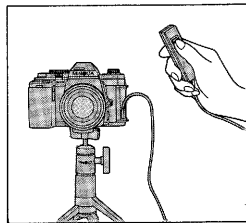
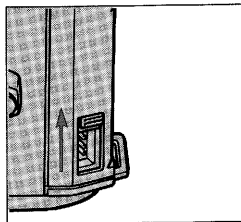
2 多重露光ボタンをいっぱいまで押し込みながら❶、巻き上げます❷。

● フイルムは送られず、フィルムカウンターも進みません。

3 シャッターを切って2回目の露光を行ないます。

● 2～3を繰り返せば何回でも多重露光が行なえます。
● 画面全体が明るい被写体や同じ被写体を多重露光するときは、露出補正が必要な場合があります。
● プリント用フイルムをプリントするとき、多重露光されていることを店頭で申し出ないとプリントされない場合があります。

長時間露出(バルブ)撮影

夜景や天体撮影など、任意の露光時間で長時間露出を行なうときは、Mモードの **bulb**(バルブ)にセットします。バルブではシャッターボタンを押している間、シャッターが開いています。

- アイピースからの逆入光を防止するため、アイピースシャッター(P.52参照)を閉じてから撮影してください。
- 撮影中は露光時間0秒〜99秒が繰り返しカウントされます。
- 新品の単3形アルカリ乾電池を使用すれば、常温で連続約8時間までの撮影ができます。ただし低温では電池性能が低下し撮影時間が短くなります。

- リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/Lを取り付ければ、カメラぶれを防ぐことができるとともに、シャッターを開けたままロックすることができるので便利です。

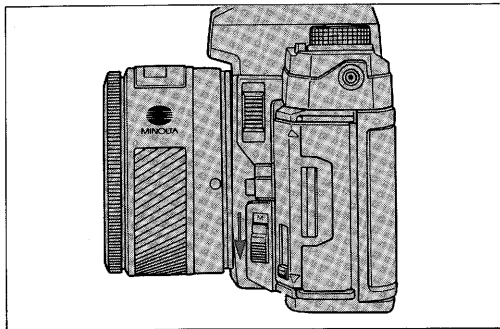
手動によるピント合わせと撮影

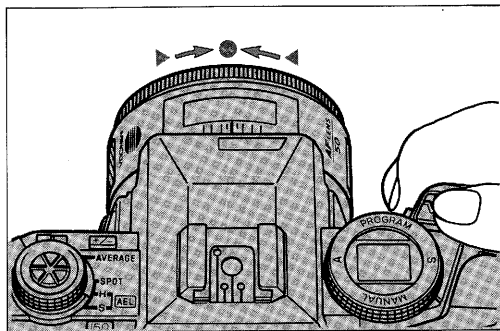
次の場合は手動によりピントを合わせます。

●意図的に手動でピントを合わせたいとき ●マクロ付きズームレンズ※でマクロ撮影するとき	フォーカス表示またはマット面を使用するピント合わせ
●オートフォーカスの苦手な被写体を撮影するとき	マット面を使用するピント合わせ

※AFズーム70-210mmF4を除く。それ以外のマクロ付きズームレンズでは、フォーカスモードスイッチがAFのままでもズームリングによるピント合わせができますがフォーカスモードスイッチをMにして距離リングを最近接にしておけば最大撮影倍率が得られます。

★天体撮影などの長時間露出の途中で電池切れが予想されるときは、あらかじめ新品電池と交換(Ni-Cd電池ならフル充電)してください。
★三脚取り付けねじ穴の深さ(5.4mm)より長い三脚ねじを使うと、カメラの内部機構を破損するおそれがありますので、ご注意ください。また、ねじ込みの際、カメラを回して必要以上の力を加えないでください。

フォーカス表示を使用するピント合わせ

1 フォーカスモードスイッチをMにします。

2 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを重ねます。

3 シャッターボタンに指を触れながら、フォーカス表示にしたがって距離リングを回転させます。

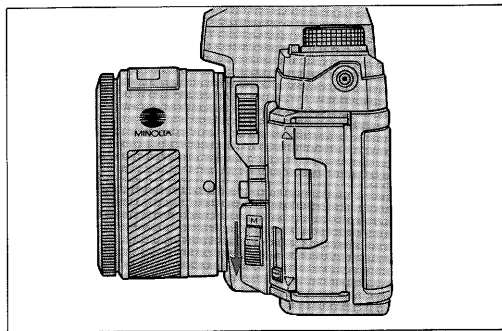
● フォーカス表示はシャッターボタンから指を離しても10秒間継続します。

フォーカス表示▶●◀の内容

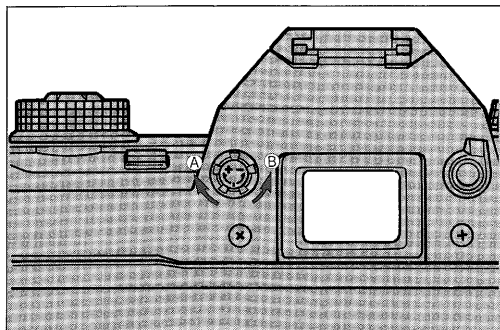
▶マーク(赤LED) 点灯	後ピン表示 (距離リングを右へ回転させます)
◀マーク(赤LED) 点灯	前ピン表示 (距離リングを左へ回転させます)
●マーク(緑LED) 点灯	合焦表示 (距離リングの回転をやめます)
▶ ◀マーク(赤LED) 点滅	検出不能警告

4 ●マークの点灯を確認して、シャッターを切ります。

●メインスイッチが ▪))) のときは、●マークが点灯すれば電子ブザー音が鳴ります。

マット面を使用するピント合わせ

1 フォーカスモードスイッチをMにします。

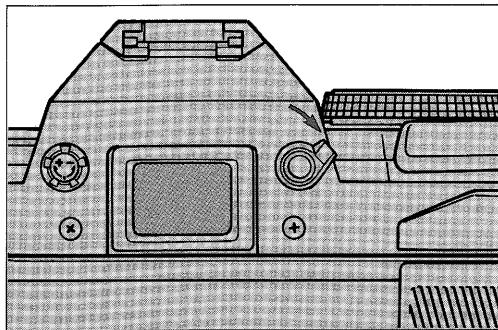
2 距離リングを回転させ、被写体がはっきり見えたらシャッターを切ります。

視度調整機構

視度調整機構により最適のファインダー視度に調整すれば、軽度の近視・遠視・老眼なら、眼鏡をかけずにファインダー像を鮮明に見ることができます。

● 視度調整アタッチメント1000（9種）の併用も可能です。

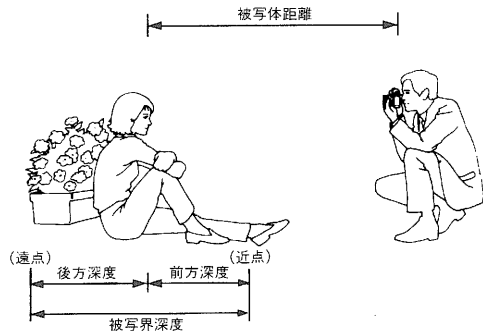
1 レンズを取り外し、カメラをなるべく明るいところに向けます。

2 フォーカスフレームが最もはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを、遠視の場合は＋方向へⒶ、近視の場合は－方向へⒷ、回します。

アイピースシャッター

セルフタイマー撮影や長時間露出撮影など、ファインダーから目を離して撮影するときは、アイピースからの逆入光を防止するためアイピースシャッターを閉じます。

被写界深度とプレビューレバー

被写界深度とは

ある被写体にピントを合わせたとき、ピントを合わせた被写体はもちろん、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲が被写界深度で、範囲が広いときに深度が深いといい、範囲が狭いときに深度が浅いといいます。絞りを開放付近にして、背景をボカして主要被写体を浮き出させたり、最小絞り付近にして、奥行きのある被写体全体にピントを合わせるなど、被写界深度を有効に使えば、写真表現が豊富になります。

被写界深度には、次のような性質があります。

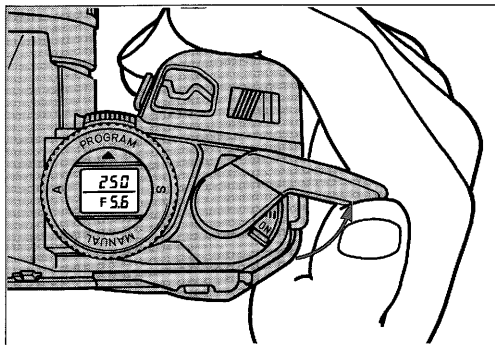
(1)絞りを絞り込むほど被写界深度は深くなり、鮮明に写る範囲が広がります。

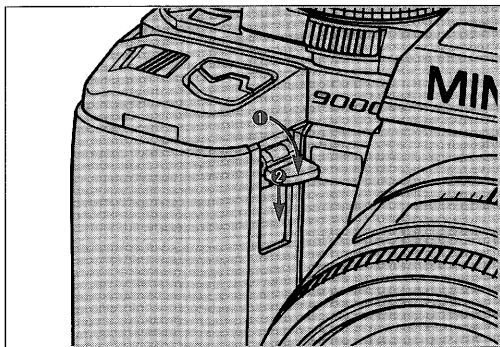
(2)焦点距離の短いレンズほど深くなります。

(3)ピントを合わせた被写体の前方深度は浅く、後方深度は深くなります。

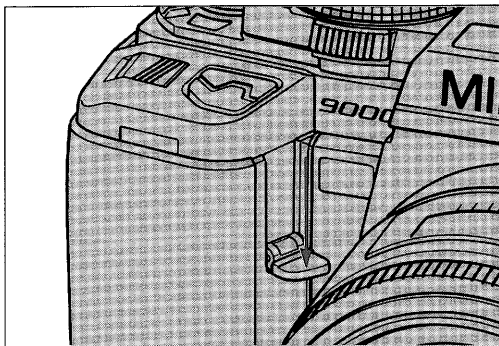
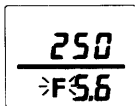
● 被写界深度はプレビューレバーまたはレンズの深度目盛により確認できます。レンズの深度目盛についでは各レンズの使用説明書をご参照ください。

プレビューレバーによる深度確認

絞りはシャッターを切ったとき以外、常に開放絞りになっていますが、プレビューレバーにより、撮影時に設定される絞り値まで絞り込めますので，あらかじめファインダー内でおおよその被写界深度を確認できます。P•A•S•Mモードのいずれでも、撮影時に設定される絞り値に絞り込めます。

1 フイルムを巻き上げます。

2 シャッターボタンに指を触れて液晶表示部の表示を点灯させ、絞り値を確認します。

3 プレビューレバーを起こし❶、絞り込まれるまで軽く押し下げます❷。

- 絞り込んだ後はレバーから指を離しても構いません。
- ボディ液晶表示部のFが点滅します。
- オートフォーカスは作動しません。
- 絞り値の変更・プログラムシフトはできません。
- 絞り込んだ後、レバーから指を離せばシャッターを切ることができます（撮影後は開放絞りに戻ります）。

250
F5.6

4 深度確認後はプレビューレバーを下まで押し下げて開放絞りに戻します。

- ボディ液晶表示部のFの点滅が停止します。Fが点滅を続けている場合は、もう一度レバーを下まで押し下げてください。

赤外線写真撮影

赤外線フイルムとO56またはR60フィルターを用いて赤外線写真撮影を行なうときは、一般撮影のときとピントの合う位置が異なりますので、ピントの補正が必要です。

- ●補正方法は各レンズの使用説明書をご覧ください。
- ●赤外線フイルムの使用説明書にしたがって露出を決め、Mモードで撮影してください。

メモリー機能

本機では、メインスイッチの位置にかかわらず、次の値がメモリーされます。

①設定したフイルム感度

②設定した露出補正値

③設定した絞り値(A・Mモード)

④設定したシャッター速度(S・Mモード)

- ●上記③・④では、撮影モードにかかわらず最後に設定した絞り値・シャッター速度のそれぞれ1つずつがメモリーされます。
- ●バッテリーホルダーを取り外した場合、メモリーしていた値は消去され上記①〜④は次の初期設定値になります。

①フイルム感度の初期設定値…ISO100(DXコード付きフイルム使用時は自動設定感度のまま)

②露出補正値の初期設定値…±0.0

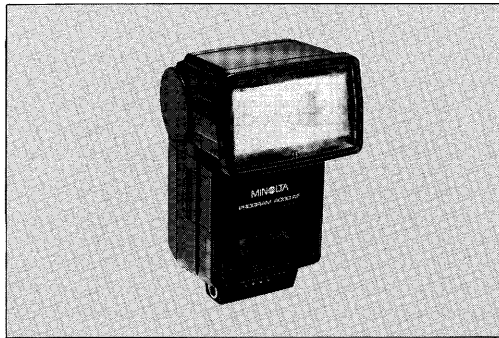
③絞り値の初期設定値…F5.6

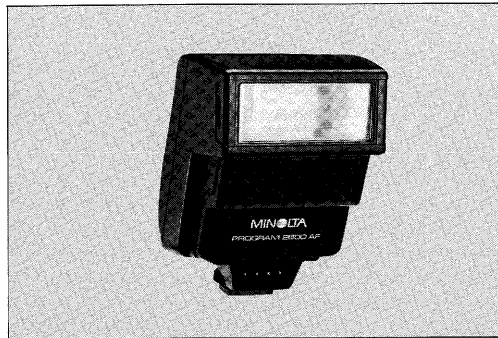
④シャッター速度の初期設定値…1/250秒

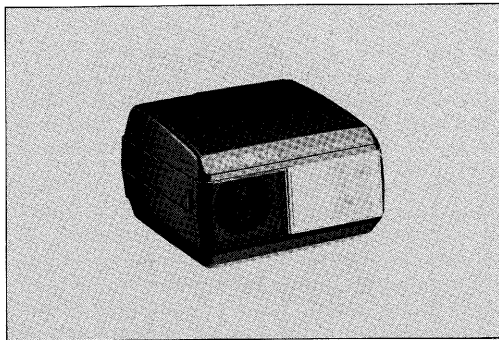
システムアクセサリーの紹介

モータードライブMD-90

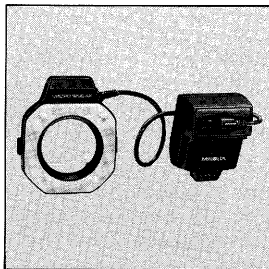
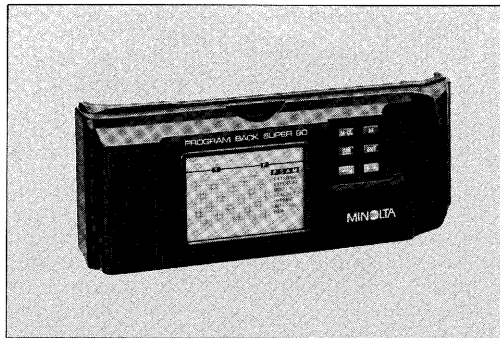
α-9000専用多機能・高性能モータードライブ。α-9000のオートフォーカスとも連動して、一瞬のシャッターチャンスを確実に捉えます。▶5コマ/秒・3コマ/秒・2コマ/秒の連続撮影と1コマ撮影が可能▶各コマごとに測距を繰り返すフォーカス優先連続撮影も可能▶逆算カウンターおよびフイルム張力検知による巻き上げ自動停止機構▶自動巻き戻し可能▶セカンドシャッターボタン付きワンタッチ着脱式バッテリーパック2種

プログラムフラッシュ4000AF

マイコン搭載ダイレクト測光オートエレクトロフラッシュ。フラッシュ撮影をより自動化・多機能化しました。▶使用レンズの焦点距離に応じて照射角度を自動設定するオートパネルズーム機能▶ガイドナンバー40の大光量、しかも6段階のガイドナンバー切り替えが可能▶各種撮影情報を液晶表示▶AF用補助光機能▶α-9000の全フラッシュ撮影モードに対応▶バウンス撮影・連続撮影やオフカメラ撮影・多灯撮影も可能

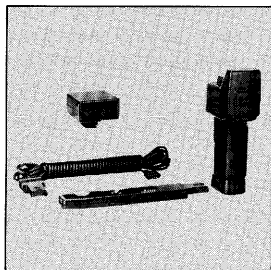
プログラムフラッシュ2800AF

ダイレクト測光オートエレクトロフラッシュ。多彩なフラッシュ撮影が簡単に行なえる上、AF用補助光機能により暗いところでも正確なピントが得られます。▶α-9000の全フラッシュ撮影モード(プログラムAE・絞り優先AE・シャッター速度優先AE・マニュアル)に対応▶ガイドナンバー28/7▶連続撮影やオフカメラ撮影・多灯撮影も可能

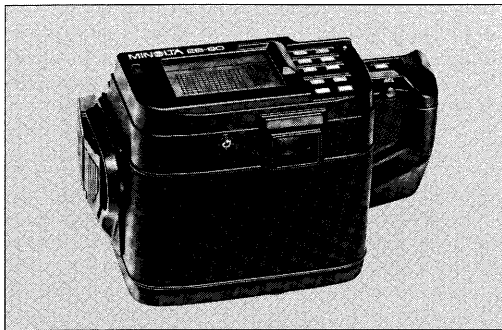
プログラムフラッシュ1800AF

軽量コンパクトなダイレクト測光オートエレクトロフラッシュ。電源をONにするだけの簡単操作でフラッシュ撮影が楽しめます。▶暗いところでも正確なピント合わせができるAF補助光機能▶長寿命の高性能リチウム電池が使用可能▶余分な電池消耗を防ぐオートパワーオフ・ワンタッチパワーオン機能▶ガイドナンバー18

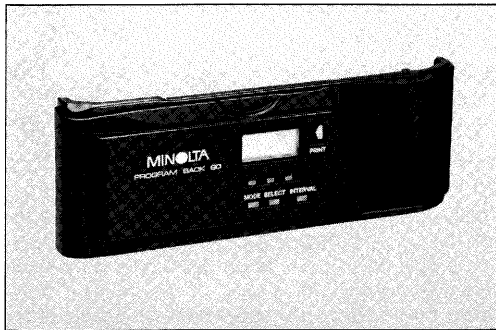
マクロフラッシュ1200AFセット

マクロレンズとの組み合わせに威力を発揮する近接撮影専用のフラッシュ。4灯選択発光方式によりさまざまな照明効果が得られます。ガイドナンバー12(ISO100・m)。照明ランプ内蔵。

コントロールグリップCG-1000セット

4000AF/2800AF/1200AFの発光性能を一段と高めることができます。さらに、フラッシュの光量比を自動制御した多灯撮影ができますので、ポートレートなどに最適です。

プログラムバックスーパー90

高度電子化技術の結晶、対話入力式スーパーマルチモードバック。α-9000のコントロールブレインとして、撮影領域の飛躍的拡大と徹底した自動化を実現しました。▶プログラムラインを設定できる画期的露出制御機能、しかも絞り優先AE・シャッター速度優先AE・マニュアルも設定可能▶グラフィック表示による大型液晶表示▶最適露出が選べる最大9コマまでの自動ずらし露光機能▶8点までの測光値メモリーとアベレージ・センター・ハイライト・シャドー の露出演算機能▶露出値をはじめ10種類のデータ写し込み機能▶無人撮影が可能なインターバル機能

100フレームプログラムバックEB-90

プログラムバックスーパーの機能を搭載し、しかもコンパクトで機動性に富んだハンディタイプの長尺フイルムバック。▶ダブルカセット式フイルムマガジンの採用により、最高100コマまでの長尺フイルムの装てんが可能。▶自動ずらし露光やインターバル機能による無人撮影といった多数コマの連続撮影に威力を発揮します。

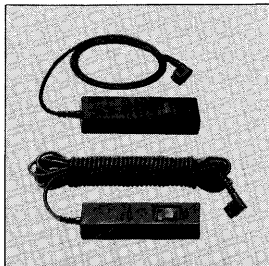
プログラムバック90

α-9000の撮影領域を拡大するマイコン制御多機能データバック。▶7種類のデータ写し込み機能(日時分・年月日・月日年・日月年・プラスカウント数値・マイナスカウント数値・固定数値)▶無人撮影が可能なインターバル機能(スタートタイム・インターバルタイム・撮影コマ数・長時間露光)▶写し込み光量自動設定▶フラッシュ充電制御

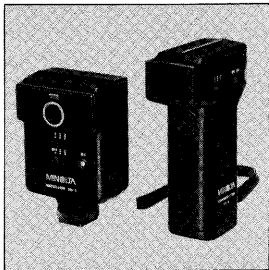
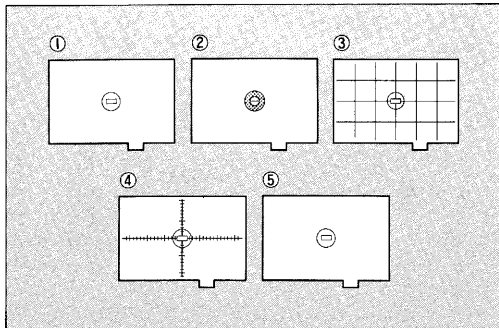
αレンズシステム

名　　称	画　角 (対角)	最近接撮影 距離(m)/倍率	フイルター径 (mm)	フード	大きさ(mm)	重量 (g)
AFフィッシュアイ16mmF2.8	180°	0.2/0.15	4種(内蔵)	固定	75×66.5	400
AF20mmF2.8	94°	0.25/0.13	72	バヨネット式	77.5×53.5	285
AF24mmF2.8	84°	0.25/0.16	55	バヨネット式	65.5×44	215
AF28mmF2	75°	0.3/0.13	55	バヨネット式	66.5×49.5	285
AF28mmF2.8	75°	0.3/0.13	49	内蔵	65.5×42.5	185
AF35mmF1.4	63°	0.3/0.2	55	バヨネット式	65.5×76	470
AF35mmF2	63°	0.3/0.17	55	バヨネット式	66.5×48.5	240
AF50mmF1.4	47°	0.45/0.15	49	内蔵	65.5×38.5	235
AF50mmF1.7	47°	0.45/0.15	49	内蔵	65.5×38.5	185
AF85mmF1.4	28°30′	0.85/0.13	72	バヨネット式	78×71.5	550
AF100mmF2	24°	1.0/0.13	55	バヨネット式	67×75.5	480
AF135mmF2.8	18°	1.0/0.16	55	内蔵	65.5×83	365
AFアポテレ200mmF2.8	12°30′	1.5/0.16	72	内蔵	86×134	790
AFアポテレ300mmF2.8※	8°10′	2.5/0.14	42(専用)	内蔵	128×238.5	2480
AFアポテレ600mmF4※	4°10′	6.0/0.11	42(専用)	内蔵	169×449	5500
AFズーム24-50mmF4	84°〜47°	0.35/0.18	55	スナップ式	69×60	285
AFズーム28-85mmF3.5-4.5(マクロ付)	75°〜29°	0.25/0.25	55	スナップ式	68.5×85.5	490
AFズーム28-135mmF4-4.5(マクロ付)	75°〜18°	0.25/0.25	72	———	75×109	750
AFズーム35-70mmF4(マクロ付)	63°〜34°	0.32/0.25	49	スナップ式	68×52	255
AFズーム35-105mmF3.5-4.5(マクロ付)	63°〜23°	0.41/0.25	55	スナップ式	68.5×87	485
AFズーム100-200mmF4.5	24°〜12°30′	1.9/0.12	49	スナップ式	69.5×94.5	375
AFズーム70-210mmF4(マクロ付)	34°〜12°	1.1/0.26	55	スナップ式	72.5×152	695
AFズーム75-300mmF4.5-5.6(マクロ付)	32°〜8°10′	1.5/0.26	55	スナップ式	72.5×163.5	865
AFアポテレズーム80-200mmF2.8	30°〜12°30′	1.8/0.13	72	バヨネット式	87.5×166.5	1350
AFマクロ50mmF2.8	47°	0.2/1.0	55	———	68.5×59.5	310
AFマクロ100mmF2.8	24°	0.35/1.0	55	バヨネット式	71×98.5	520
AF1.4×テレコンバーターアポ★	———	———	———	———	64×20	175
AF2×テレコンバーターアポ★	———	———	———	———	64.5×43.5	210

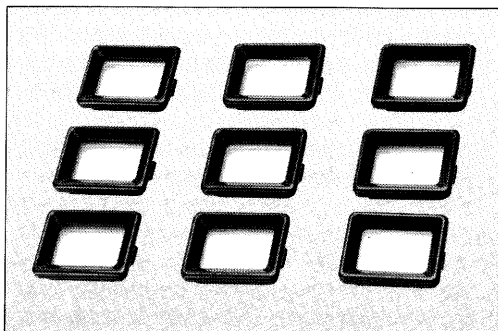
※ノーマル・1B・ND・ND4X・Y52・O56・R60フイルター付 A12・B12フィルター別販売
★AFアポテレ200mmF2.8/300mmF2.8/600mmF4専用

リモートコードRC-1000S/L

α-9000の遠隔操作ができるアクセサリー。カメラぶれを防止したいときの必需品としてだけでなくオートフォーカスの遠隔作動も可能です。長時間露出撮影に便利なロック付き。Sは50cm、Lは5m。

ワイヤレスコントローラーIR-1Nセット

α-9000の遠隔撮影装置。60mまで離れた遠隔操作が可能です。3つのチャンネルを備えていますので、同一エリア内のカメラ3台までを時差作動させることができます。

フォーカシングスクリーン90

標準装備されている全面マット式(G型)のほか、4種類のフォーカシングスクリーンが使用できます。付属のピンセットで簡単に交換できます。

①全面マット式(G型) ……………………標準スクリーン
②スプリットマイクロプリズム式(PM型) ………一般撮影用
(フォーカシングスクリーン70/90)
③方眼マット式(L型) …………………複写・一般撮影用
④目盛線式(S型) ……………………接写・天体写真用
⑤クリアー式(C型) ………………………一般撮影用

視度調整アタッチメント1000

α-9000の視度調整機構を用いてもファインダー像がはっきり見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

●このほかファインダー用アクセサリーとして、アイピースフードEH-7、アングルファインダーV_N、マグニファイヤーV_Nが使用できます。

円偏光フィルター

水面やガラス面の不要な反射光を取り除いたり、青空を鮮やかに写すためのフィルターです。72・55・49mm径用の3種類があります。

Xシリーズのオートエレクトロフラッシュ

品　　名	ファインダー内の調光確認表示	フラッシュのFDCランプ
360PX	×	×
280PX*	×	×
マクロ80PXセット**	×	×
その他のXシリーズ	×	○

×…作動しません。　○…作動します。　*…ガイドナンバー"Lo"は設定できません。　**…照明ランプはシャッターボタンに指を触れると消灯します。上記以外の機能はすべて作動します。

カメラケース

カメラケースCH-90(★)
カメラケースCH-90L(☆)
カメラケースCH-90D(★▲)
カメラケースCH-90DL(☆▲)
フロントケースCF-90L(☆)
本革ケースCH-90タイプ(★)
ソフトケースCS-1001(◪△)
ソフトケースCS-1002(■△)
ソフトケースCS-1003(□△)

★20mm・24mm・28mm・35mmF2・50mm・24-50mm・35-70mm・マクロ50mmレンズ装着用
☆35mmF1.4・85mm・100mm・135mm・28-85mm・35-105mm・100-200mm・マクロ100mmレンズ装着用
◪16mm・20mm・24mm・28mm・35mmF2・50mm・24-50mm・35-70mm・マクロ50mmレンズ装着用
■35mmF1.4・85mm・100mm・135mm・28-85mm・28-135mm・35-105mm・100-200mm・マクロ100mmレンズ装着用
□200mm(+1.4×テレコンバーター)・70-210mm・75-300mm・80-200mmレンズ装着用
▲プログラムバック装着用
△プログラムバックスーパー・プログラムバック装着用
(注)20mm・マクロ100mmレンズは★・☆に、80-200mmは□にレンズキャップのみで収納可能。

電池に関する注意

①電池を入れるとき、電池の表面に汗やアブラをつけないようにしてください。汚れたまま使用すると、接触不良の原因になりますので、汚れがあるときは、乾いた布などできれいにふきとってください。

②種類の異なる電池の混用や新品電池と古い電池の混用は、電池の液もれ・破裂・寿命低下の原因となりますので避けてください。

③電池は火の中へ投入したりショート・分解・加熱しないでください。

④低温では電池性能が低下するため、電池寿命が短くなりますので、新品電池を使用し、カメラを保温しながら撮影してください。また、予備の新品電池をご用意ください。特に0°C以下のときはNi-Cd電池の使用をおすすめします。なお低温のため性能低下した電池は常温に戻すと性能回復します。

取り扱い上の注意

①カメラは精密機械ですから、落としたり、大きな衝撃を与えないでください。また、カメラを水中に落としたり、カメラの内部に水滴が入ったりすると、内部の手の届かないところまで水分が回ってしまい、部品がサビついてしまうことがあります。こうなると修理不能か、修理ができても修理費用が高くなりますので、水辺で使用するときは、十分ご注意ください。

②本機の使用温度範囲は−20°C〜+50°Cです。使用温度範囲を超えるところでの使用は、内部機構に悪影響を与えますので避けてください。なお、0°C以下では液晶表示の応答が遅くなることがあります。

③極めて低温のところで使用するときは、正規の作動をしないことがありますので、カメラを保温しながらお使いください。特に急激な温度の変化は、カメラ内部に水滴を生じる危険性がありますので、絶対に避けてください。

④カメラ内部、特にミラーやシャッターには絶対に手を触れないでください。ミラーが汚れたときは、お近くのミノルタサービスステーションまでカメラをお持ちください。

⑤ボディマウント内上部にある信号ピンはさわらないでください。よごれなどにより接触不良になると信号授受が正しく行なわれなくなりますのでご注意ください。

手入れの仕方

①カメラの清掃は、からぶきで——
カメラは、ホコリをきらいますので、ときどき柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。カメラボディにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。また、エアボンベタイプのブロアーの強い風をシャッターやカメラの内部へ吹きつけることは避けてください。
②レンズの清掃は、レンズクリーナーで——
レンズを汚さないようにご注意ください。もし、汚れた場合、ブロアーでホコリを除き、柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。それでもとれないときには、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー(コダック製、富士フイルム製など)をごく少量つけて軽くふいてください。液体クリーナー以外は、絶対に使わないでください。
③海岸で撮影したあとは——
カメラの表面を柔らかい布でよくふき、塩分などをよくふきとってください。
④ボディのバヨネット座板面を清掃するときは——
清潔な布で軽くふきとるだけにしてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。

保管の仕方

①二週間以上使わないときは——
できるだけバッテリーホルダーから電池を取り出しておいてください。電池の液もれでカメラを害することがあります。
②カメラの保管場所は——
高温・多湿のところやホコリっぽいところは避けて、風通しのよいところに保管してください。乾燥剤(シリカゲルなど)といっしょに保管すれば、より安全です。
③カメラを持ち運びするときは——
自動車のリアウインドウやトランクの中などに放置すると、真夏の炎天下では極度の高温になり、カメラを故障させることがありますので、このような場所には、カメラを放置しないでください。
④カメラとレンズを取り外して保管するときは、接点部を保護するため、必ずボディキャップとレンズ後キャップを取り付けてください。

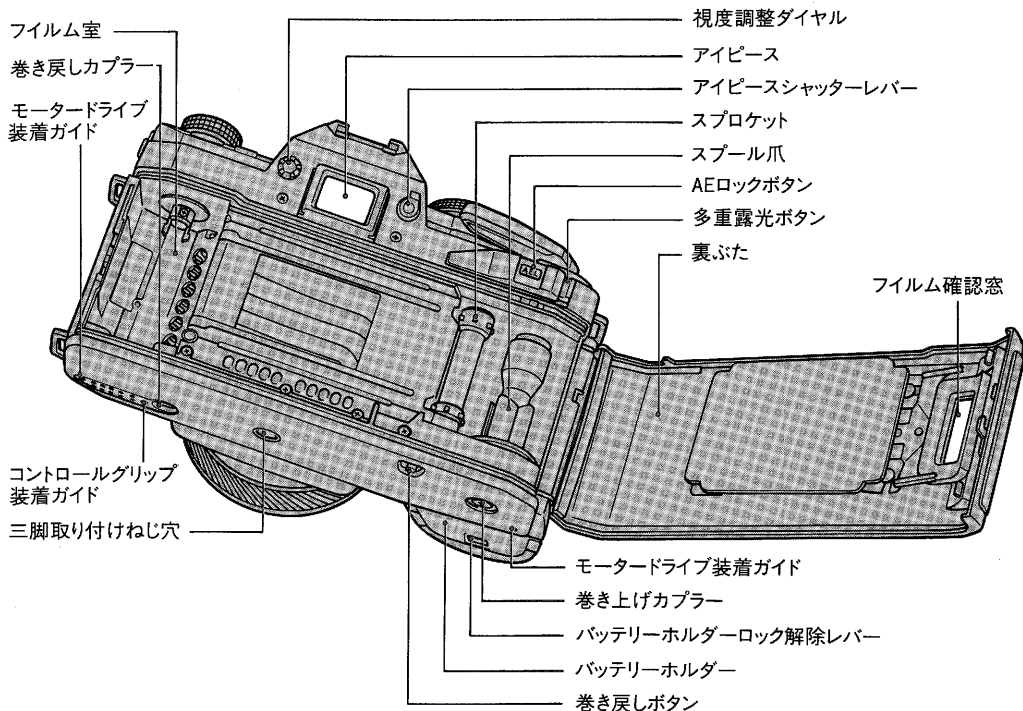
主な性能

カメラタイプ	マイクロコンピュータ制御35mmAE一眼レフオートフォーカスカメラ
撮影方式	プログラムAE(Pモード　ワイド・スタンダード・テレプログラム自動設定　プログラムシフト可能) 絞り優先AE(Aモード)　シャッター速度優先AE(Sモード)　マニュアル(Mモード)
使用フイルム	パトローネ入り35mmフイルム(135型)　画面サイズ:24×36mm
レンズマウント	ミノルタAマウント(含油ステンレス合金使用)
使用レンズ	ミノルタαレンズ
オートフォーカス方式	TTL位相差検出方式　検出素子:CCD　検出範囲:EV2〜19(ISO100)　シャッターボタンに指を触れている間は連続フォーカス(軽く押し込めばフォーカスロック)　ファインダー内3点LED・ブザー音(メインスイッチ ■))) のとき)によるフォーカスモニター　マニュアルフォーカシング可能
測光方式	TTL開放ボディ内測光　中央重点的平均測光・スポット測光切り替え可能　スポット測光時はハイライト・シャドー基準露光可能　専用フラッシュ使用時はダイレクト測光　受光素子:複合シリコンフォトセル1個　測光範囲:EV1(スポット測光時3)〜20(ISO100・F1.4レンズ使用時)　シャッターボタンに指を触れて測光開始(指を離しても10秒間測光継続)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　電磁レリーズ
シャッター速度	P・Aモード:1/4000秒〜30秒(無段階) S・Mモード:1/4000秒〜30秒(1段単位) バルブ(露出時間はカメラの電池寿命により制限)
ボディ液晶表示	絞り値　シャッター速度　露出補正値　フイルム感度　バルブ時タイムカウンター　制御連動外警告　プレビュー表示
ファインダー内表示	撮影モード　測光モード　絞り値　シャッター速度　露出補正値　フイルム感度　メータードマニュアル表示(±6.5EV)　制御・測光連動外警告　3点LEDによるフォーカスモニター　フラッシュ充電完了および調光確認表示
ファインダー	フォーカスフレーム・スポットサークル付き全面アキュートマット(他に4種類　ユーザー交換可能)　視野率:94%　倍率:0.81倍(50mm標準レンズ∞のとき)　視度調整機構(1〜−3diopt.)・アイピースシャッター内蔵　低輝度時液晶表示照明自動点灯

フイルム感度	ISO6～6400(1/3段単位)　DXコード付きフイルム使用時は自動感度設定
AEロック	AEロックボタンの押し込みによる(スポット測光時はハイライト・シャドー基準露光に制御可能)
露出補正	−4.0～+4.0EV(1/2段単位)
セルフタイマー	シャッターボタンによるスタート　作動時間:10秒　LED点滅・ブザー音(メインスイッチ •))) のとき)で作動表示　途中解除可能
フラッシュ撮影方式	プログラムAE(同調速度:1/250・1/125・1/60秒のいずれか自動設定)　絞り優先AE(同調速度:1/250秒自動設定　AEロックにより1/125秒～30秒も設定可能)　シャッター速度優先AE(同調速度:1/250秒～30秒手動設定　F5.6自動設定　AEロックにより全絞りも設定可能)　マニュアル(同調速度:1/250秒～30秒手動設定)　いずれもフラッシュ光はダイレクト測光により自動調光　専用フラッシュのAF用補助光機能によるオートフォーカス可能
フイルム巻き上げ	レバー巻き上げ式(巻き上げ角128°　予備角30°)　小刻み巻き上げ可能　フイルムカウンター1まで1/4000秒・最小絞りに自動設定　モータードライブMD-90装着可能
フイルム巻き戻し	巻き戻しボタン・巻き戻しノブによる手動巻き戻し
ミラー	クイックリターンミラー(ハーフミラー)　サブミラー付き
裏ぶた	交換可能　グリップ・フイルム確認窓付き
プレビュー	プレビューレバーの押し下げによる(P・A・S・Mモードで作動可能)
多重露光	多重露光ボタンの押し込みによる
その他の機能	フイルムカウンター(順算式)　リモートレリーズターミナル　シンクロターミナル(JIS型式)
使用電池	単3形マンガン乾電池・アルカリ乾電池・Ni-Cd電池いずれか2本
バッテリーチェック	電池消耗時は液晶表示が点滅警告
大きさ・重量	139(幅)×92(高さ)×53(奥行)mm・645g(電池別)

●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

各部の名称②

フイルム室
巻き戻しカプラー
モータードライブ装着ガイド
視度調整ダイヤル
アイピース
アイピースシャッターレバー
スプロケット
スプール爪
AEロックボタン
多重露光ボタン
裏ぶた
フイルム確認窓
AEL
コントロールグリップ装着ガイド
三脚取り付けねじ穴
モータードライブ装着ガイド
巻き上げカプラー
バッテリーホルダーロック解除レバー
バッテリーホルダー
巻き戻しボタン

テキストの紹介

「αフォトグラフィテキスト」

α-9000を使ってより良い写真を撮っていただくためのテキスト。レンズやフラッシュ、フイルムの選び方、構図や光の演出法、表現の実践、カメラの基礎知識等をわかりやすく解説しています。風景編・ポートレート編・マクロ編 の3種類があります(有料)。
(いずれもB5判 40ページ)

ご希望の方は、お近くのサービスセンター、サービスステーションへお問い合わせください(裏表紙参照)。

アフターサービスについて

①本製品の補修用性能部品は10年間を目安に保有しております。
②アフターサービスに関しては『アフターサービスのご案内』に詳しく記載しておりますので、ご覧ください。

ミノルタカメラ株式会社

ミノルタカメラ販売株式会社

〒104 東京都中央区銀座5-11-13(ニュー東京ビル) サービス部 TEL (03)545-4683(代)

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160	東京都新宿区新宿3-17-5(カワセビル3階)	TEL (03)356-6281(代)
銀　座	〒104	東京都中央区銀座5-11-13(ニュー東京ビル1階)	TEL (03)545-3531(代)
大　阪	〒530	大阪市北区梅田1-11(大阪駅前第4ビル7階)	TEL (06)341-6501(代)
本　町	〒541	大阪市中央区備後町2-4-9	TEL (06)201-5816(代)

サービスステーション

札　幌	〒060	札幌市中央区北2条西4-1(三井ビル10階)	TEL (011)281-6666(代)
仙　台	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10(住友生命仙台青葉通りビル2階)	TEL (022)261-3431(代)
新　潟	〒950	新潟市東万代町1-30(新潟東万代ビル4階)	TEL (025)244-7188(代)
松　本	〒390	松本市深志2-4-26(太陽生命松本ビル6階)	TEL (0263)36-6188(代)
横　浜	〒221	横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1(相鉄鶴屋町ビル6階)	TEL (045)314-9221(代)
静　岡	〒420	静岡市御幸町5-9(静岡FSビル7階)	TEL (0542)51-7301(代)
名古屋	〒460	名古屋市中区丸の内3-18-28(KSビル5階)	TEL (052)962-6761(代)
金　沢	〒921	金沢市間明1-355(上野ビル1階)	TEL (0762)91-5561(代)
広　島	〒730	広島市中区橋本町9-7(リクルート広島ビル4階)	TEL (082)223-2501(代)
高　松	〒760	高松市寿町1-2-5(朝日生命高松第2ビル4階)	TEL (0878)51-6239(代)
福　岡	〒812	福岡市博多区博多駅東2-2-2(博多東ハニービル1階)	TEL (092)441-6121(代)

営業時間……………… 新　宿　10:00～18:00(祝日定休)
大　阪　10:00～18:00(日・祝日定休)
その他　9:00～17:30(土・日・祝日定休)

カメラインフォメーションセンター お客様専用電話によるカメラ相談窓口(東京) TEL (03)435-5500

営業時間……………… 9:00～12:00および13:00～17:30(土・日・祝日定休)

9223-2071-41 IJCAN⑭